公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成26年4月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻542号

ハンドボール

特集
第16回男子アジア選手権
JOCジュニアオリンピックカップ2013
平成26年度日本協会事業計画

3·4
MAR. APR. 2014 No.542



「表紙写真」第16回男子アジア選手権より　石戸[illegible]選手(左上)　加藤嵩士選手(右上)　小[illegible]大選手(左下)　[illegible]樹選手(右下)

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN



For the real game

「プレ　ヤ　の技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

10 7:58

株式会社 モルテン 東京都墨田区横川五丁目5-7

www.molten.co.jp

（2016・2019・2020に向けて）

日本のハンドボール発展のビッグチャンスに向かって全員でスタート!!



公益財団法人 日本ハンドボール協会専務理事　川上 憲太

ハンドボール競技は直近のIHFニュースによると急速に加盟国が増え、準加盟国を入れると200か国を越える国と地域が参加する、ビッグスポーツの1つとして発展し続けています。この背景には、オリンピック競技としてIOCの評価に対するIHFの懸命な努力があると思われます。即ちオリンピック競技に求められる要素として、世界でいかに多くの人々に親しまれているか、オリンピックでの注目度（TV視聴率・観客の数）がいかに高いか、今後の発展への可能性がいかに見込まれるか等が厳しく評価されるからであります。これを日本ハンドボール界に置き換えた時、まさにそのまま我々の目指すものであり、全員で努力しなければならないところだと思います。

前年度に2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、更に2019年12月に女子世界選手権の日本開催が決定するという日本ハンドボール界にとってまたとない**ビッグチャンス**が訪れました。そして、「大きな具体的目標」を持つことが出来ました。これに伴い日本のスポーツ界の国際競技力向上に向けた具体的な取り組みが強力に推進されることとなり、すでに多くの具体策が実行される動きとなっています。

その中で「オリンピック常時出場、世界選手権常時出場」はマストとなり、そこでのメダル獲得に向けた活動と結果が強く求められることとなります。それと共に、日本ハンドボール界にあらゆる角度から具体的な活動を求められてまいります。「強化にすべてのベクトルをあわす」ことを柱として、ハンドボール競技の更なる注目度アップ、競技人口の拡大・発展に向けて具体策を持って、ビッグチャンスをつかみとるために全員で実施活動のスタートを切りましょう。平成26年度は具体的スタートの年ととらえ、以下の事業を展開して参ります。

〔プロジェクト〕

（1）「2019・2020強化戦略プロジェクト」を立ち上げ、強化計画・強化活動・強化資金・国際情報・マーケティング・広報等の総合サポート体制に拠り、強化の目的達成に向けて全員で活動します。

（2）「2019女子世界選手権準備委員会」を推進し、2019年大会実施に向けて準備に入ります。

（3）「組織活性化プロジェクト」として社会人連盟の活性化と日本選手権平成27年度実施に向け準備に入ります。

（4）「がんばれ20万人会」を中心に2019・2020に向けた「日本代表応援」の諸策を実施します。

〔強化〕

（1）本年1月の男子アジア選手権の結果を重くとらえ、分析・原因究明を行い強化計画・強化体制の再構築を計ります。

（2）男子代表・女子代表ともリオデジャネイロ・オリンピック出場権獲得に向かってアジア競技大会を大きなチェックポイントにおき、不退転の決意で強化を推進します。

（3）2019・2020に向け、「五輪強化指定選手」制度を設置し、強化計画に基づく強化活動をスタートさせます。

（4）海外強化拠点の充実を計ります。

〔発掘・育成〕 NTS・ジュニアアカデミーにおいてトップ（日本代表）との一貫指導体制を確立し、指導内容を徹底させ、日本代表選手を数多く送り込みます。

〔審判〕 2019・2020での大会参加を目指した国内・国外の国際基準のジャッジの徹底を計ります。

〔競技〕 日本選手権の平成27年実施、国内スケジュールの再編に具体的に取り組みます。
2019・2020の大会運営の準備の取り組みをスタートします。

〔普及〕 指導者育成事業：トップ指導者の育成と国内指導者の育成・拡充を図ります。

〔マーケティング〕 2019・2020の決定に伴うバリューを捉え、他部門と連携し、具体的活動計画に基づいて幅広い活動を展開します。

〔広報〕 2019・2020を最大のチャンスととらえ、様々な活動を展開します。

〔財務〕 2020に伴う強化資金の補助金助成金に注目し、強化資金の確保に取り組みます。

〔日本リーグ〕 2019・2020を踏まえ、日本協会の施策と連携し、あらゆる角度から協力・支援を行います。

皆様、絶大なるご理解・ご協力・ご支援を宜しくお願いします。

第16回男子アジア選手権

16th Asian Men's Handball Championship

最終順位

金　：カタール
銀　：バーレーン
銅　：イラン
4位：UAE
5位：韓国
6位：サウジアラビア
7位：クウェート
8位：オマーン
9位　：日本
10位：イラク
11位：中国
12位：ウズベキスタン

選手団名簿

役職	名前	ふりがな	所属
団長	市原　則之	いちはら　のりゆき	公益財団法人 日本ハンドボール協会
役員	津川　昭	つがわ　あきら	公益財団法人 日本ハンドボール協会
監督	清水　博之	しみず　ひろゆき	公益財団法人 日本ハンドボール協会
コーチ	野村　広明	のむら　ひろあき	公益財団法人 日本ハンドボール協会
分析	市村　志朗	いちむら　しろう	公益財団法人 日本ハンドボール協会
ドクター	井本　光次郎	いもと　こうじろう	熊本赤十字病院
トレーナー	飯田　純一郎	いいだ　じゅんいちろう	株式会社Ｊ・フロントライン

No.	背番号	名前	ふりがな	所属
1	1	志水　孝行	しみず　たかゆき	湧永製薬
2	2	森　淳	もり　じゅん	大崎電気
3	3	小澤　広太	おざわ　こうた	大崎電気
4	4	地引　貴志	じびき　たかし	大同特殊鋼
5	5	高智　海吏	こうち　かいり	トヨタ車体
6	6	石戸　貴章	いしと　たかゆき	トヨタ車体
7	8	渡部　仁	わたなべ　じん	トヨタ車体
8	9	武田　享	たけだ　とおる	大同特殊鋼
9	11	信太　弘樹	しだ　ひろき	大崎電気
10	13	加藤　嵩士	かとう　たかし	大同特殊鋼
11	16	甲斐　昭人	かい　あきひと	トヨタ車体
12	18	成田　幸平	なりた　こうへい	湧永製薬
13	19	時村　浩幹	ときむら　ひろき	大崎電気
14	20	岸川　英誉	きしがわ　ひでのり	大同特殊鋼
15	22	千々波　英明	ちぢわ　ひであき	大同特殊鋼
16	24	野村　喜亮	のむら　よしあき	大同特殊鋼



厚み増す中東の壁　第16回男子アジア選手権兼第24回男子世界選手権アジア予選

日本選手団団長　市原 則之

第16回男子アジアハンドボール選手権大会は、去る1月25日から2月6日までの13日間にわたりバーレーン王国の首都マナーマで開催された。この大会は、来年カタールで開催される第24回男子世界ハンドボール選手権大会のアジア予選を兼ねる重要な大会であった。

男子世界ハンドボール選手権大会は、第1回大会が1938年にドイツで開催され、前回2013年のスペイン大会で23回を数える。

この75年の歴史の中で、第1回大会から第2回大会までの間、緊迫する世界情勢の影響でなんと16年間の空白を余儀なくされているが、その後は3～4年間隔を繰り返しながら、1993年のスウェーデン大会から2年間隔に定着し今日に至っている。

日本は1961年に西ドイツで開催された第4回大会が初出場で、その後10回大会まで連続して7回の出場を記録している。その後は、ソウルオリンピックを契機に韓国の著しい台頭や、「中東の笛」で混乱する中にも西アジア勢が確実に力をつけて、日本は1990年のチェコスロバキア大会に出場した以降12大会中5大会しか出場できず、世界への道が大変険しいものになっている。

こうした中、日本協会は2012年のロンドンオリンピック終了後の9月に強化体制の一新を図り、新強化本部長に元代表選手で代表監督も務めた津川昭氏が就任。そして即1ヶ月後に津川新強化本部長の下、男子監督に大同特殊鋼前監督の清水博之氏、女子監督に東海大学女子監督で女子代表コーチも務めた栗山雅倫氏と夫々決定し、2016年のリオデジャネイロオリンピックに向けてスタートした。

その後、男女代表チームとも順調に強化活動を重ね数度の海外遠征で多数の国際マッチを経験した。女子においては、昨年12月にセルビア共和国で開催された第21回世界選手権において、優勝したブラジル、2位のセルビア、3位のデンマークを予選ラウンドであわやのところまで追い込む健闘をし、リオに向けて順調なスタートを飾っている。（本誌1・2月合併号で既報）

今般私は、初めて国際公式試合の舞台に立つ男子代表チームの団長を仰せつかる中、強化担当副会長として男子チームの強化が順調に進んでいるかを冷静にチェックする目的も含め大会に参加した。

当大会は、参加12か国が2グループに分かれて予選ラウンドを戦い、各グループで勝ち抜いた上位2か国が本選ラウンドで3枠の世界選手権出場をかけて戦う。

日本は、Bグループに入りカタール、クウェート、UAE、オマーン、イラクと同組になった。戦前、日本協会関係者や男子代表スタッフは、ヨーロッパ各国から帰化選手を揃えたカタールは強敵であるが、他の国とは割かし戦い易く、カタールと共に取りこぼしなく2位以内に入って本選ラウンドに進めば、（カタールは世界選手権開催国として出場権有）世界選手権の出場は確実だと予測していた。

従って、第1戦のクウェート戦は絶対に落とせない、新生全日本男子チームのスタートとして大変重要な戦いとなった。（予選・本選ラウンドの戦評は、本誌記載の情報分析班の報告参照）

①予選ラウンド第1戦　●日本26－28クウェート（1敗）

試合開始後より一進一退の接戦を続けながらも、前半を16対14で制す。後半一時4点リードするも淡白で雑なプレーを繰り返し24分過ぎに逆転を許し、結局2点差の敗戦。この痛恨の敗戦により残り試合を全勝するか、他チームが取りこぼし混戦状態となるか、でないと世界選手権出場は厳しい。

国際試合の経験不足か、国際試合を戦う心魂が見えない。日本リーグ戦の延長ではない。国対国の戦いは、国の誇りをかけた魂の戦いだ。技術で勝っても魂で負けることは競技者の恥。苦しい時の叱咤激励、逆境を跳ね返す怒涛の叫び、仲間を鼓舞するコート上のリーダーが不在。

②予選ラウンド第2戦　○日本35－26UAE（1勝1敗）

初戦敗退の反省をしっかりミーティングで確認してか第2戦勝利。

勝つには勝ったが、しかし、何か物足りない。点差を開けても直ぐ追いつかれる。速攻が出ないからか一気呵成のたたみ込みがない。

③予選ラウンド第3戦　●日本22－23オマーン（1勝2敗）

まさかの敗戦。情報不足か、オマーンは同グループで実力的には日本より格下と戦前予測。その心の油断でイージーミスの繰り返しで先行される。前半途中一時5点のリードをするも淡白な試合運びが続き前半を11対8で終了。後半立ち上がりから甘いディフェンスをつかれ一時3点リードを許す。試合途中の停滞時に具体的戦術指示がベンチから出ない。この敗戦で世界選手権出場は絶望的になった。

④予選ラウンド第4戦　○日本31－22イラク（2勝2敗）

戦前の予想通り同グループで一番の格下チームであったが、相変わらず立ち上がりの鋭さがなくイラクに連続ゴールを許すスタート。時間で戦う競技は、立ち上がりの10分間と終了間際10分間の戦い方で勝負の明暗を決す。勝つには勝ったが前後半とも中盤でボーンヘッドが続くエアポケット帯がある。

従来の代表チームも抱えた課題であるが、これを克服しな

いと世界では勝てない。試合運びの戦術とメンタル強化は、代表監督任せでなく、平素の国内ゲームから各チームの指導者が心がけなくては、代表チームは強くならない。

クウェートがUAEに敗れ、3チームが2勝2敗で混戦状態となり、日本に僅かな望みが残る。

⑤予選ラウンド第5戦　●日本26－33カタール（2勝3敗）

世界選手権出場はほぼ諦めかけた日本だが、予選ラウンドBグループは全勝のカタール以下混戦状態で、にわかにチャンスが訪れる。予選ラウンド最終戦で全勝のカタールに勝てば予選ラウンド2位通過が確定し、本選ラウンドを（予選ラウンド1､2位襷掛けトーナメントで1位～4位以内決定）待たずして世界選手権出場が決まる。（カタールは地元開催国枠で出場決定済）しかしながらカタールは優秀な帰化選手を揃え心技体とも抜きんでた実力で尋常な戦い方では勝てない。

そこで、津川強化本部長は今大会後のことも考えて、にわか仕込みではあるが新たな戦術を提案する。これを了承した清水監督、野村コーチは選手を交え綿密なミーティングを行い、マンツーマン的な変則ディフェンスシフトによって相手を困惑させてミスを誘い速攻に結びつける戦法を採用。つまり、セルビアの女子世界選手権で「おりひめジャパン」が相手チームを苦しめた戦術を参考にしたものである。問題は、この新しい試みが果たして選手全員に理解でき、また、体力と精神力の維持が出来得るかにあるが、しかし、座してチャンスを捨てるより、一縷の望みをかけて挑戦し、自らが道を切り開いて行くしか方法はない。

試合開始より、この新ディフェンスシステム採用でチームの目的意識が高まり、選手の気持ちも一体となって積極的なプレーを展開して、一時は3点のリードであわや勝てるぞとの思いを抱かせた。その後追いつかれ前半は15対15で折り返す。後半に入っても接戦を繰り返すも結局最後まで持久力、集中力が持続せず15分過ぎから徐々に点差を広げられた。この敗戦で世界選手権の出場は完全に消滅したが、しかし、この試合で試みた戦法は、今後に何か明るい材料を示唆したように感じた。

⑥本選ラウンド9～12位戦　○日本41－12ウズベキスタン

⑦本選ラウンド9、10戦　○日本28－20イラク

予選ラウンドでは6ヵ国中5位という成績で、本選ラウンドではウズベキスタンとイラクには勝ったが、結局アジアで9位という屈辱的な大会となった。

大会を振り返るも、韓国も予選ラウンドで苦戦し本選ラウンドのベスト4に入れず、世界選手権の出場国は西アジアに独占された。これでアジアハンドボールのリードバランスは完全に東アジアから西アジアに移り、増々中東の壁は厚みを増してきた。

今の日本代表はアジアのどこの国とやっても勝てそうで、しかし、どこの国とやっても容易には勝てない。世界への道は年々険しく至難となってきた。

こうした状況下にあって、年々遠のく世界への道、歴代執行部の責任は重い。ここで、私ども現日本協会執行部は、今日までの強化事業の推進において自省し真剣に考え直さなければならない。競技団体にとって競技力向上は最優先事業である。強い代表チームを育てることが、多くのハンドボールを志す子供達に夢を与え普及活動にも好影響を与える。

強化事業の重要な代表選考から合宿計画や海外遠征まで総てを強化本部長と現場任せでは執行部の怠慢。この程度でよし、従来通りで結構では経費の無駄。強化の環境づくりは協会全体で取り組むもの。

幸い、近々川上専務理事が中心となり「2019・2020オリンピック強化戦略プロジェクト」が立ち上がる。戦略的強化策、指導者養成、代表選手育成、代表監督・コーチ養成、国際強化、海外拠点、海外派遣等々、課題山積。

絵に描いた餅、プラン倒れにならないようハンドボール界を挙げて代表強化に取り組まなければならない。

不肖私も、16年数ヶ月間のJOCの役員を昨年6月末に退任したので、これからはハンドボール協会の事業をしっかりサポートしていく決意である。

小学生、中体連、高体連、学連、日本リーグ、社会人ほか全組織が連携して一丸となったご協力ご支援を心からお願い申し上げます。

ハンドボールを志す子供たちに、大きな大きな夢を与え続けるために。

毎月1日・20日は
ゆめタウンデー
全館全品
ゆめカード値引積立額
5倍
※一部専門店は除きます。
あなたと私のゆめタウン
ゆめタウンイメージキャラクター
関根麻里
株式会社イズミ
本社/〒732−8555
広島市東区二葉の里三丁目3番1号
TEL(082)264−3211(代)

第 16 回男子アジア選手権大会報告

男子代表チーム監督　清水 博之

2014 年 1 月 24 日から 2 月 6 日バーレーン・マナマで第 16 回男子アジア選手権が開催されました。ご存知の通り今大会は、2015 年カタールで開催される世界選手権の出場権がかかった大会であり、リオデジャネイロ・東京オリンピックへの継続強化を図っていく上でも非常に重要な位置付けの大会でありました。通常では世界選手権の出場枠はアジアより 3 枠でありますが、上記にもあるとおりカタールが開催国で出場できるため、そのカタールがベスト 4 以内に入れば上位 4 カ国が出場権を獲得できるという好条件でもありました。戦う相手は、昨年 5 点差で敗れている前大会王者の韓国、世界選手権に向け着実に強化を進めているカタール、前大会で敗れているサウジアラビア、地元のバーレーンなど、どのチームも気が抜けない厳しい戦いになることは大会前より予想しておりました。代表チーム最大の目標は「オリンピック出場」、「アジアチャンピオン奪回」ではありますが、短期目標として、まずは「世界選手権出場」を掲げて選手と共にトレーニングまた準備を進めて参りました。

同じアジアと言えども日本選手と比べ全体的に体格が大きく、6m ライン際の 3 次元空間では勝負できないため、ゴールからできるだけ離れたエリアまた角度のないエリアでの勝負を徹底すべく、高めの 3-2-1DF からポジション移動（ダブルポスト）時に 4-2DF へ変化するシステムをベースに準備しました。OF では大型 DF に対しての縦の勝負ではなく、横のクロス攻撃、間（ブラインド）からのクイックシュートや角度のないサイドシュートまた視野外からのカットインなどを中心に強化を図りました。

新体制となり 1 年 3 カ月過ぎましたが、中東勢との戦いは初めてであり、かつ他国との試合は広島国際大会（7 月）欧州遠征（8 月）以来であるため事前に現地入りし、2 試合のフレンドリーマッチを準備し本大会入りすることとしました。フレンドリーマッチの結果は、1 試合目：日本代表 25（12-9、13-13）22 バーレーン代表、2 試合目：日本代



表 26（18-12、8-14）26 イラン代表、ミスはあったものの、この 2 試合だけを評価するとトレーニングで強化してきたことは通用すると確認できました。しかし、逆に 1：1 の個人で突破され簡単に得点される場面、激しい接触やラフプレーが随所にみられ、日本にはないものも感じました。

そして迎えた本大会、組み合わせは、B グループ（カタール、日本、UAE、クウェート、イラク、オマーン）、初戦のクウェート戦が切符獲得を左右する一番重要な戦いであることはスタッフ一同選手も含め十分に認識し試合に挑みました。常に先行リードし試合を進めることができましたが、後半 10 分過ぎの大事な時間帯で数的優位にも関わらず、シュートを決めることができず、逆に得点され徐々に追い込まれて行きました。それでも最後の最後まで諦めず 1 点差で残り 1 分を切ったところで速攻から退場を奪い、最後のワンプレーにかけましたが、得点できず 2 点差で試合終了となりました。

2 戦目以降は UAE・イラクに勝利したもののオマーンに 1 点差で敗れ、星の潰し合いで切符は最終戦のカタール戦に持ち込まれました。大会を通し圧倒的な強さを見せつけてきたカタールではありますが、要所要所でミスもありチャンスは十分にあると感じておりました。しかしながら、通常の戦法で勝利することは困難であり、これまでのベースにしてきた DF ライン 10m を更に 13m あたりまであげ、約束事を修正し、2m を超えるバックプレーヤーのロングシュート、またポストをからめた 2：2 を防ぎ、ミスからの速攻、得点されてもクイックスタートで DF 態勢が整う前に数的有利な状況

堂々完結!!
明日のない空
大好評発売中!
青春と涙のハンドボール群像劇!!
堺内夏子
全3巻
定価／各550円（税込）　発行／小学館

で勝負することを確認し試合に挑みました。前半先行リードで試合を進めることができましたが、終了間際に 15-15 と同点に追いつかれはしました。大方予想通りの展開で試合を運ぶことができました。後半に入りこのままの勢いで最後までと思いましたが、退場者をきっかけに徐々に点差を広げられ、終盤のノーマークチャンスも決め切れず 7 点差で敗れ、世界選手権出場の道は途絶えてしまいました。

最終順位は 12 チーム中 9 位とこれまでになく悪い結果を残してしまい、皆様方のご期待に応えることができず残念でなりません。しかし、アジア諸国との実力差はカタールが頭ひとつ抜け出し、韓国を含め紙一重の団子状態です。必ずこの混戦状態から抜け出し、次戦のアジア大会ではリベンジを果たし、リオデジャネイロへ繋げるべく選手と共に精進していく所存です。

最後になりますが、会場まで足を運び国旗を掲げご声援くださった現地の皆様、深夜にネット中継を通し最後まで応援してくださったご家族また関係者の皆様、日本リーグ戦終盤の貴重な時期に快く選手を派遣してくださった所属チームの皆様、心より御礼申し上げます。

第 16 回男子アジア選手権を終えて

男子代表チーム主将　**地引 貴志**

アジア選手権はバーレーンマナマでアジアの 12 カ国が出場し、開催されました。今大会は 2015 年にカタールで開催される世界選手権のアジア予選を兼ねた大会でもありました。全日本男子は世界選手権への切符獲得はもちろんアジア No. 1 という目標を持ち、今大会に挑みました。

結果は、目標とは程遠い 9 位であり非常に悔しい結果でした。試合を振り返ると、リードしている時は選手全員が積極的なプレーをしているが、自分達のミスなどで点差が縮まり追いつかれてしまうと相手にペースを握られ、消極的になる所があり、逆転されてしまうことが多くありました。劣勢になったときこそ、コートの中で選手達が自信を持ってプレーできなかったことが一番の敗因と感じました。

また、今回のアジア選手権に向けて練習してきたプレス DF は、中東に比べフィジカル面で劣っている日本でも選手全員が運動量を出して連動することで、十分に対応できたと感じました。そして守ってからの速攻で得点出来ている時は日本ペースで試合を進めることが出来ていたと思います。この時間帯を増やしていく為に選手が勝負所や流れを取る場面でコートの中で固まり、選手全員で守って走ることが 60 分間できなくてはいけないと思いました。また 1 点を争う試合の中でも冷静、積極的にプレー出来る判断力、技術力、そして強い精神力が必要だと感じました。日本代表の主将として自分自身が率先できなかったことが反省でもあります。

今回出た結果を選手全員が謙虚に受け止め、10 月に行われるアジア大会でアジア No. 1 になる為に、今以上の自覚、覚悟、責任を選手ひとりひとりが持って取り組んでいきたいです。また普段の練習から正確なプレーを習慣化し、どんな状況でも自分達のベストパフォーマンスを出すことができるよう常に緊張感を持って練習していきたいと思います。

最後に今回のアジア選手権で得た課題を一つでも修正し、悲願のリオオリンピック出場に向けて選手一同、日々努力していきたいと思いますので、これからも暖かいご声援を宜しくお願い致します。

第 16 回男子アジア選手権を終えて

男子代表チーム　**小澤 広太**

私は 1 月 25 日からバーレーンで行われたアジア選手権に日本代表として参加してきました。この大会には世界選手権の切符を獲得することと、アジア No. 1 になるという目的をもって挑みました。結果は予選リーグ 5 位、順位決定戦で 9 位になりました。この結果を出したことにより、日本国内で応援してくださった方々、現地で声援を送ってくださった方々、私達のチームを強化するために協力してくださった全ての皆様を失望させてしまい残念です。しかし、この結果が現状の私達の実力であることを真摯に受け止め、なぜ勝てなかったか、何が足りない、何が通用したということを一つ一つしっかりと考え、トレーニングを積んで一歩ずつ前進していかなくてはならないと思っています。なかでも中東の選手の、捕まれていようが一人で DF を突破していく身体、メンタルの強さが必要だと感じました。現在のチームは昨年度から国内での強化合宿や 2 回の欧州遠征を行わせてもらいました。そこでは日本代表選手としての『自覚』『覚悟』『責任』を常に持つことの意識改革から始まり、欧州遠征では世界のトップとの差を肌で感じることができ、試合経験を積み、国内合宿では個の強化や対外国人を意識したトレーニングをしてきました。合宿や遠征をしてきたことで個人、チーム力が上がっている実感はありました。しかし、国を代表して戦うチームは良い結果を出さなければなりません。世界選手権に出場できないことで、世界のトップとの試合が経験できず、リオ五輪出場に向けた強化にマイナスになったことは事実です。今後も日本代表として活動できるのであれば今まで以上の『自覚』『覚悟』『責任』を持ち、チームに浸透させていきたいと思っています。今回の大会には怪我などで参加できなかったチームメイトもいますが、そのメンバーも含めリオ五輪出場を目的としてチーム一丸となって下を向くことなく前進していきたいです。

戦　評

■1月26日（日）：Bグループ

日本　26（16−14、10−14）28　クウェート

アジア選手権初戦は、クウェートとの試合。クウェートのスローオフで試合が始まる。日本の3-2-1DFに対し、クウェートはポストシュートから7mTを獲得したが、これをGK甲斐がセーブする。一方日本はクウェートの6-0DFに対し、ロングシュートを放つもGKにセーブされる。その後、クウェートはポスト、カットインで得点。日本は信太のステップシュート、武田の速攻、加藤のポストと得点を重ね前半20分で10対10の接戦となる。終盤日本は高智、石戸などのロングが決まり前半を16対14でリードする。

後半スタート岸川、高智と連続得点し4点差となり、このまま流れにのりたいところだったが、クウェートは13番の個人技で連続得点し、ついに後半24分日本は逆転されてしまう。そこからは一進一退の攻防が続くも後半28分渡部のサイドで1点差に追いつく。後半29分日本の攻撃。信太の1対1でクウェートは退場となりチャンスと思われたが、ミスを出してしまい得点できず28対26でクウェートに負けた。

[個人得点] 小澤:6点、岸川:4点、武田・信太・高智:3点、石戸・野村：2点、地引・渡部・加藤：1点

■1月28日（火）：Bグループ

日本　35（16−11、19−15）26　UAE

アジア選手権二戦目はUAEとの試合。UAEのスローオフで始まる。UAEは、日本の3-2-1DFに対しロングシュートで先制。一方日本はUAEの6-0DFに対し、渡部のサイドシュートで得点。序盤に小澤が退場するも相手に得点を与えず、逆に加藤のポストで得点する。UAEは24番にボールを集め連続得点。日本は高智、千々波の速攻や武田、岸川のロングなどで得点し、前半を16対11で終える。

後半スタート信太のロング、速攻で連続得点するも、後半3分に信太が3回目の退場をしてしまい、レッドカードをもらってしまう。ここから流れがUAEに行くかと思われたが、逆に日本は一つに固まり武田のロング、小澤の速攻、野村の7mTなどで連続得点し、後半10分で10点差をつける。その後、UAEはロングとポストで追い上げるも、日本は成田のカットからの速攻や時村のロングシュート、地引のカットインシュートが決まり最後までUAEに主導権を与えず、35対26で勝利した。

[個人得点] 渡部:6点、武田・小澤・高智:4点、信太:3点、成田・時村・岸川・野村・地引・加藤：2点、千々波・森：1点

■1月30日（木）：Bグループ

日本　22（11−8、11−15）23　オマーン

アジア選手権三戦目はオマーンとの試合。日本はオマーンの6-0DFに対し、連続してシュートを外し、逆にオマーンに連続得点されるが、日本は信太・小澤の速攻、渡部のサイドシュートで得点しすぐに追いつく。中盤オマーンのミスやロングシュートを防ぐと、日本は高智のカットイン、加藤のポストなどで4連取する。オマーンはタイムアウトを請求し、流れを変えようとするも退場者を出してしまう。日本はここで一気に点差を広げたいところだったが、シュートまでいくもGKにセーブされ、6対5の場面で得点できず逆にオマーンに得点され、前半を11対8で終える。

後半スタートから突き放したい日本だったが、ミスやシュートを連続してGKにセーブされてしまう。オマーンは速攻、やカットイン、ポストシュートで連続得点し、後半15分同点に追いつかれてしまう。その後日本は相手の退場でチャンスを迎えるも焦りからか連続でミスが出てしまい得点できず、相手に得点され残り3分で3点差をつけられてしまう。なんとしても追いつきたい日本は小澤の7mT、渡部サイドシュートで得点するも22対23で試合終了。

[個人得点] 小澤:6点、信太:4点、高智:3点、武田・石戸・岸川・渡部：2点、加藤：1点



■2月1日（土）：Bグループ

日本　31（16−10、15−12）22　イラク

アジア選手権四戦目はイラクとの試合。イラクの連続ゴールでスタートする。今日も出だしの悪い日本だったが、すぐに相手のシュートミスなどで岸川、信太、野村、渡部などが速攻で6連取する。中盤にも相手のミスから小澤の連続ゴールや千々波の速攻で5連取し主導権を握り前半を16対10で終える。

後半に入りイラクは7番を中心にダブルポストでOFするも、日本の5-1DFをなかなか崩せずリズムが取れない。逆

に日本はDFから速攻で4連取し、後半10分で10点差をつける。このまま更に点差を広げていきたい日本だったが、シュートミスやミスが出てしまい点差をはなすことができない。終盤石戸の切れのあるロングで連続得点するも、最後はイラクに3連続得点され31対22で試合終了。たくさんの現地にいる日本の方々に応援され一つになった試合であった。

[個人得点] 渡部：9点、小澤：6点、石戸：4点、千々波・信太：3点、岸川・野村：2点、武田・時村：1点

■2月3日（月）：Bグループ

日本　26（15－15、11－18）33　カタール

アジア選手権予選ラウンド最後はカタールとの試合。この試合に勝てば予選ラウンド2位となり世界選手権の切符獲得、負ければ予選ラウンド5位となる重要な試合となった。日本はカタールに対し3-2-1DFからのオールマンツーで勝負に挑む。スタート、カタールは大型ポストにボールを集め得点を重ねる。一方日本は連続得点されるが負けじとボールをサイドに集め、渡部のシュートで対抗する。中盤攻撃的DFが機能し、相手のミスから小澤・信太・高智などで4連取し3点差をつけるとカタールも切りからのOFで得点し、前半は15対15の互角な戦いとなった。

後半スタートは日本のDFが機能し一進一退の攻防を繰り広げるが、日本が退場者を出すと徐々に点差が開いてゆく。日本も必死に追い上げようとシュートまで持っていくものの最後のシュートを相手GKに防がれ逆に点差を開かれてしまう。最後は渡部・小澤の連続シュートで得点するが、26対33で敗戦。この結果日本は2勝3敗でBグループ5位となり、明日の試合はウズベキスタンとの試合となった。

[個人得点] 小澤：6点、渡部：5点、信太：4点、石戸・高智：3点、千々波：2点、武田・岸川・野村：1点

■2月4日（火）：9-12位戦

日本　41（18－7、23－5）12　ウズベキスタン

アジア選手権9-12位順位決定1回戦。Aグループ6位のウズベキスタンとの対戦。スタートからウズベキスタンは日本の3-2-1DFに対し足が止まり連続ミスをだしてしまう。日本はそのボールを千々波・岸川・信太の速攻などで7連取し、一気に主導権を握る。ウズベキスタンもロングやポストシュートなどで必死に点差を縮めようとするが、日本のDFをなかなか崩すことができず前半を18対7で終える。

日本は後半スタートも攻撃的なDFで相手のミスを誘い、高智・成田・渡部の速攻などで8連取する。中盤以降も野村のロング、森・加藤のポストシュートや地引の7mT、GK



志水の連続セーブなどによりウズベキスタンに最後まで反撃の手を許さず41対12で試合終了。

[個人得点] 時村・高智：6点、千々波・信太：5点、成田：4点、野村・渡部：3点、岸川・森・加藤：2点、小澤・石戸・地引：1点

■2月5日（水）：9-10位戦

日本　28（17－11、11－9）20　イラク

アジア選手権9位決定戦。イラクとの試合。スタート日本は高めの3-2-1の攻撃的DFで相手のミスを誘うと、岸川・千々波の速攻や高智のカットインで4連取する。すると、たまらずイラクはタイムアウト請求する。その後イラクはクロスからのポストのOFで得点し、追いつこうとするが、信太のランニングシュートや石戸の速攻などで得点する。その後はGK志水の好セーブや時村・渡部の速攻で点差を広げ17対11で前半を終える。

ハーフタイムでDFの修正をした日本が再度攻撃的DFを仕掛けるとイラクは連続してミスをだしてしまう。中盤日本は野村の7mT、武田のロング、成田・小澤の速攻などで4連取し、10点差まで広げる。終盤イラクも意地を見せ連続得点するも、日本のDFを最後まで崩すことができず、28対20で試合終了。今回のアジア選手権を9位で終えた。

[個人得点] 小澤・成田・高智：4点、石戸・信太・岸川：3点、時村・渡部：2点、武田・千々波・野村：1点



《帯同報告》第16回男子アジア選手権（2015年男子世界選手権出場権予選）

日時:2014年1月25日〜2月7日(1月22､23日　練習試合)
開催都市：バーレーン、マナーマ
帯同医師：井本 光次郎（熊本赤十字病院）

2015年世界選手権の出場をかけたアジア選手権が上記のごとく開催された。開催期間中における帯同医師としての医事報告を行う。

バーレーンの1、2月は日本の晩秋くらいの気温であり、雨も少なく、過ごし易い気候であった。中東地域での開催ということもあり、帯同前は水道事情を考慮し、下痢、腹痛、嘔吐などの消化器症状を訴える選手が多くなることが予想された。治安は約2年前に「アラブの春」を起因とするバーレーン騒乱が起こっていたが、現在はデモなどは行われておらず、安定していた。

帯同前の選手状態であるが、半月板損傷疑いによる膝関節痛を訴えプレーにも支障をきたしている選手が1人おり、その他整形外科的な慢性痛を抱えている選手は数名いるもののプレーが不可能な整形外科的外傷や内科的な問題点を抱えている選手はいなかった。

大会期間中は、コンタクトスポーツであるがゆえに、練習試合、本戦ともにいくらかの外傷を認めた。多いのは一時的な選手交代が必要な程度の大腿部打撲（5例）であり、足関節捻挫（3例)、鼻根部打撲（2例）が続いた。特に大きな外傷としては2例認めた。1例は、もともと膝関節痛を訴えていた選手がシュート時にデフェンスとのコンタクトにより負傷し、プレー継続が不能となった例、そして、もう1例は、シュート時の着地の際に足関節内反を強制され負傷し、こちらもプレー継続が不可能となった例である。この症例は骨折が疑われ、翌日現地の病院を受診させ、足関節果部骨折（外果のみ）を認めた。手術適応であった。

内科的な問題点としては、遠征の後半になると下痢や腹痛症状を訴える者が増えた。下痢、軟便は多い時で1日に8名認めた日もあったが、感染性とは考えにくく、重傷化も認めず、いずれも数日で収まった。疲労によるものと考えられた。

今回の遠征では途中、注射針など処置用品が不足する事態があった。内服の常備品は十分と考えられたが、注射針やガーゼなどの備品、外用剤など基本リストとして追加を考慮すべきものも多数あった。今後、医事に関わる者の役割として、ドクターバックの再整理を含め、選手の既往歴、傷害、健康状況などを帯同前に速やかかつ簡便に把握できるシステム作りも進めていかなければならないと考える。

アジアハンドボール選手権（Asian Men's Handball Nations Championship)

男子は1977年から、女子は1987年から開始されたアジア地域での2年に1度開催されるAHF加盟国で争われる大会である。この大会はIHF主催の世界選手権のアジア予選も兼ねている。

日本男子の成績

年	開催国	優勝国	日本の成績	参加国
1977	クウェート	日本	優勝	9
1979	中国・南京	日本	優勝	5
1983	韓国・ソウル	韓国	2位	8
1987	ヨルダン・アンマン	韓国	2位	11
1989	中国・北京	韓国	2位	9
1991	広島	韓国	2位	12
1993	バーレーン・マナーマ	韓国	3位	12
1995	クウェート	クウェート	4位	9
2000	熊本	韓国	3位	5
2002	イラン・エスファハーン	クウェート	6位	7
2004	カタール・ドーハ	クウェート	2位	9
2006	タイ・バンコク	クウェート	5位	9
2008	イラン・エスファハーン	韓国	6位	10
2010	レバノン・ベイルート	韓国	3位	12
2012	サウジアラビア・ジッダ	韓国	4位	10
2014	バーレーン・マナーマ	カタール	9位	12

日本女子の成績

年	開催国	優勝国	日本の成績	参加国
1987	ヨルダン・アンマン	韓国	3位	6
1989	中国・北京	韓国	3位	5
1991	広島	韓国	2位	5
1993	中国・汕頭	韓国	4位	7
1995	韓国・ソウル	韓国	3位	4
1997	ヨルダン・アンマン	韓国	3位	5
1999	熊本	韓国	3位	5
2000	中国・上海	韓国	2位	7
2002	カザフスタン・アルマイト	カザフスタン	4位	7
2004	広島	日本	優勝	4
2006	中国・広州	韓国	3位	4
2008	タイ・バンコク	韓国	3位	10
2010	カザフスタン・アルマイト	カザフスタン	4位	8
2012	インドネシア･ジョグジャカルタ	韓国	3位	12
2014	未定			

男子：通算の各国成績（回数）

	国	優勝	2位	3位
1	韓国	9	3	0
2	クウェート	4	2	4
3	日本	2	5	3
4	カタール	1	2	2
5	中国	0	2	2
6	バーレーン	0	2	1
7	サウジアラビア	0	0	3
8	イラン	0	0	1

女子：通算の各国成績（回数）

	国	優勝	2位	3位
1	韓国	11	2	1
2	カザフスタン	2	0	0
3	日本	1	2	8
4	中国	0	10	3
5	北朝鮮	0	0	2

【参考】男子日本代表世界選手権の戦績

回数	開催年	開催国	参加国	日本の成績
第4回	1961年	ドイツ	12	12位
第5回	1964年	チェコスロバキア	16	16位
第6回	1967年	スウェーデン	16	11位
第7回	1970年	フランス	16	10位
第8回	1974年	東ドイツ	16	12位
第9回	1978年	デンマーク	16	12位
第10回	1982年	西ドイツ	16	14位
第12回	1990年	チェコスロバキア	16	15位
第14回	1995年	アイスランド	24	23位
第15回	1997年	熊本	24	15位
第19回	2005年	チュニジア	24	23位
第22回	2011年	スウェーデン	24	16位

第22回 JOCジュニアオリンピックカップ2013ハンドボール大会

最終順位

【男子】
優　勝：茨城県選抜
準優勝：大分県選抜
３　位：鹿児島県選抜・沖縄県選抜

【女子】
優　勝：愛知県選抜
準優勝：山口県選抜
３　位：東京都選抜・茨城県選抜

個人表彰

【男子】
■オリンピック有望選手
該当者無し
■最優秀選手
中村　光　茨城県選抜（水海道西中）
■優秀選手
長弘一輝　山口県選抜（岐陽中）
服部將成　愛知県選抜（笹島中）
千葉顕人　宮城県選抜（中田中）
田中　周　沖縄県選抜（鏡原中）
部井九アダム勇樹　福岡県選抜（多々良中央中）
堀田陽大　大阪府選抜（大体大附中）
青山　稜　茨城県選抜（けやき台中）

【女子】
■オリンピック有望選手
安藤かよこ　愛知県選抜（上野中）
■最優秀選手
衣川直緒　愛知県選抜（上野中）
■優秀選手
金山桃歌　富山県選抜（堀川中）
相澤菜月　茨城県選抜（けやき台中）
大松澤彩夏　宮城県選抜（中田中）
山本李虹　東京都選抜（東久留米西中）
西村美桜里　熊本県選抜（宇土鶴城中）
中村風夏　神奈川県選抜（西中原中）
吉田瑞萌　神奈川県選抜（岩崎中）

大会を振り返り

大会事務局長　長谷川賢治

福島県開催２年目となる、第22回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会が、12月22日（日）～26日（木）までの５日間、県営あづま総合体育館をメインに福島市国体記念体育館とともに開催されました。この大会は、『将来、オリンピックや世界選手権大会等において、日本代表選手として活躍する可能性のあるジュニア選手の発掘と育成』を目的としています。2019年女子世界ハンドボール選手権大会（熊本県）、2020年オリンピック・パラリンピック（東京都）が日本で開催されると決定した後だったこともあり、例年以上に関心が集まり、未来の日本代表選手への期待が強く感じられました。

本大会は、全国47都道府県が選抜チームを編成し、予選であるブロック大会を勝ち抜いて出場する大会であるため、高い実力を備えながらも、所属する単独チームでは全国大会に進めなかった選手が、全国大会に出場するチャンスとなる大会です。今年度は、男子青森県選抜が初出場を果たしたことで、昨年度大会からさらに出場経験チームが増えました。

また、全国の中学生が３年間の集大成を発揮する大会としての位置づけにふさわしく、JHAジュニアアカデミー選手をはじめ、身体能力が高く、戦術理解に優れた将来性のある選手が総勢747名出場するレベルの高い大会となりました。

開会式では、（公財）日本オリンピック委員会理事蒲生晴明様から、これまでの日本代表の活躍や、世界で活躍する選手になってほしいという期待が込められたご挨拶をいただきました。また､水泳競技伊藤華英様の「励ましの言葉（講話）」では、挫折から立ち上がりオリンピアンになったという経験をもとに、あきらめずに取り組むことの大切さを話していただきました。話を聞いている選手たちの表情には、自分の力を十分発揮し、チームで日本一になる、そして世界にはばたく選手になるという意気込みが感じられました。

大会は、男女ともに３チームずつ８ブロックに分けられた予選リーグを行い、各ブロックの１位が決勝トーナメントに進出する方式で行われました。予選48試合では、同点が４試合、前半同点またはリードされた状態からの逆転勝利が６試合と少なく、前半を好スタートし主導権を握ったチームが、後半も引き離すという試合展開が多くありました。決勝トーナメントになると、決勝まで全14試合のうち、２～３点差の試合が６試合と、前後半を通じて相手チームを分析しながら修正し、対応していったチームが勝利した印象を受けます。また、CPとの連携やシューターとの駆け引きに長けたGKの存在も大きな勝因となっていたように感じました。

女子決勝戦は、決勝まで常に５点以上の差をつけ勝利してきた愛知県選抜と、連覇をねらう山口県選抜の対戦となりました。前半４点差でリードする愛知県選抜に、後半猛反撃をした山口県選抜でしたが、22対21の１点差で愛知県選抜が初優勝を飾りました。

男子決勝戦は、全中出場の手代木中、けやき台中を軸に個人能力の高い選抜チームを作り上げてきた茨城県選抜と、春中優勝の大分中を中心に連覇をねらう大分県選抜の対戦になりました。前半序盤こそ大分県選抜のペースで進みましたが、中盤以降、GKのスーパーセーブやバランスの良い得点力を発揮し主導権を握った茨城県選抜が25対19で勝利し、８年ぶり４回目の優勝を果たしました。選手たちの健闘をたたえる拍手につつまれながら、大会を終えました。

最後になりましたが、全力でハイレベルな試合展開を繰り広げてくれた選手や保護者の皆様、マナーも含めて熱心に指導を重ねてこられたチームスタッフの皆様、素晴らしいジャッジで大会に華を添えていただいた審判員の皆様、そして（公財）日本ハンドボール協会をはじめ、多くの方々の支えで今大会を無事終了することができましたことに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





男子優勝　茨城県選抜

茨城県選抜男子チーム監督　大原 雅広

このたび茨城県選抜男子ハンドボールチームは８年ぶり４度目の優勝を果たすことができました。これも茨城県ハンドボール協会と各市町村の心強いバックアップや、保護者の協力、茨城県小・中体連の指導者による日頃の熱心な指導、高体連の先生方のアドバイスなど、支えて下さったたくさんの方々の力添えがあったからこそ成し遂げられた優勝です。また、切磋琢磨してきた関東の選抜チームや、福島選抜・宮城選抜・岡山選抜など、たくさんのライバル達がいたからこそチームが目標を持ち続け、前進することができました。お相手してくださった指導者・選手の皆様、本当にありがとうございました。

私がチームの全体指導に専念できたのは、コーチである落合由佳先生、寺田良太先生、秋山昌允先生がいつも選手一人一人に寄り添い、温かい言葉をかけ続けてくれたからです。また、今年の大会から男子は３号球の導入が始まりましたので、ケガをしないための体づくり・筋力づくりも大切な要素となりました。体のケア、フィジカル強化に徹してくれた松元トレーナーのサポートも心強かったです。練習では、県立藤代紫水高校との合同練習を行い、技術・戦術理解を深めました。滝川一徳先生、小倉慶輔先生、選手達には、徹底した基礎練習と「勝者のメンタリティ」を植え付けていただき、私自身も勉強させていただきました。

支えて下さった皆様には心から感謝しています。そして私を信じて、日本一努力してくれた選手たちは私の宝物です。このチームで監督をさせていただいたことは、私の財産です。これからも目の前の子供たちと真剣に向き合い、共に学び合っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、第22回JOCジュニアオリンピックカップ2013ハンドボール大会の開催にご尽力いただいた福島の方々を中心とする関係機関、関係各位の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

茨城県選抜男子チーム主将　渡邉 翔太

「カウントダウンの声が聞こえてくる。3、2、1、タイムアップ。全国優勝だ！　仲間が万歳して駆け寄ってくる。最高の瞬間だ。しばらくして、大原先生が宙を舞う。1、2、3回と歓喜の胴上げ。チームが一つとなって日本一を掴み取った。」

この優勝までの道のりは決して楽なものではありませんでした。チーム結成から短期間で臨んだ関東地区予選では、東京選抜との決勝戦で最大７点差まで広げられたリードを追い付き、延長戦の末、１点差で勝利しました。その後の練習では、常にチームで課題を持ち、今まで以上に練習に励みました。苦しい時もありましたが、仲間と声を掛け合い乗り越えてきました。

そして迎えた本選の決勝トーナメントでは、愛知県選抜・沖縄選抜に苦しめられました。しかし、「俺達は負けない！」という強い気持ちを持ち、逆転勝利しました。そして、決勝戦の相手は大分選抜でした。昨年のJOC全国大会、そして夏の全中でけやき台中としても敗れている因縁の相手です。「絶対に負けたくない！」という、より強い気持ちを持って全員がコートに立ち、25対19で勝利を収め、優勝することができました。

この最高のメンバーと最高の結果を残すことができたのは、監督の大原先生を始め、スタッフの先生方や、保護者の方々など、支えてくれた皆さんのおかげです。そして大会運営に全力を注いでくれた福島の皆さんにも感謝しています。本当にありがとうございました。





女子優勝 愛知県選抜

愛知県選抜女子チーム監督　阿萬 隆文

2020年東京オリンピック開催が決定し若き選手の活躍が期待されるこの年に、第22回JOCジュニアオリンピックカップにおいて愛知県勢女子チーム初の優勝という快挙を達成出来、大変嬉しく思います。今大会開催に向け、ご尽力下さった福島県ハンドボール協会をはじめ関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

大会に向け、全国出場経験を持つ上野中・平針中を中心に県下6校から選手を招集し9月に活動を開始しました。小柄な選手が多いため、①脚を使い走り負けない機動力、②自分達で考えながらプレーする展開力、③エースに頼らず、どこからでも得点できる攻撃力、を念頭にチーム作りをしました。4か月という短期間で、キャプテン平野を中心に明るく、結束力のあるチームへと成長しました。目標を全員出場、全員得点、そして悲願の全国制覇と掲げ、大会に臨みました。

大会、決勝トーナメント1回戦は春夏連覇の西中原中を擁する神奈川戦です。後半途中、最大8点差と苦しい展開の中、コート・ベンチの選手全員が諦めることなくチーム一丸となり逆転勝利することが出来ました。準決勝は昨年、同大会で敗戦を喫した東京戦です。昨年からのメンバーは先輩達の想いも胸に戦い、神奈川戦の勢いのまま勝利しました。

決勝の相手は昨年度の覇者、山口選抜です。組織的なDFと素早いクイックスタートでなかなかペースを掴めず、予想通り縺れる展開となりましたが何とか1点差で逃げ切り、初優勝を飾ることが出来ました。

この度の勝因の1つとして、小学校時代からのハンドボール経験者が多かったことが上げられます。運動神経が形成されるゴールデンエイジの時期にハンドボールに触れ、競技スポーツとして取り組んできた選手は、時として大人の常識を覆すようなプレーをいとも簡単にやってしまうシーンを見せてくれます。今後、更に日本のハンドボールを成長させるためには、この小学生（ジュニア層）の充実も重要な要因の1つと考えます。

愛知県選抜女子チーム主将　平野 晏示

この度、福島県で開催されたJOCジュニアオリンピックカップで優勝できた事を誇りに思います。私達愛知県選抜は6校から16名のメンバーが集まり結成されました。全員が脚を使い、個々が考えながらプレーするチームを目指し練習に取り組みました。私達はとても仲が良く結成当初から雰囲気良く練習出来ましたが、チームへの声かけや、一人ひとりのプレーに対して厳しい声を掛けることが出来ず、本当のチームになりきれない感じがありました。しかし練習や試合を重ね自分達の弱さ、負けることの悔しさを知ることで、お互いに声を掛け合うことが出来、プレーが繋がっていくのを感じました。

そして迎えた全国大会。チームが目指すは愛知県勢初の『全国制覇』です。初戦は練習試合で負けていた福井戦だったので緊張しましたが練習の成果を発揮して、しっかり勝ちきることが出来ました。

今大会で一番苦戦したのは春・夏連覇の西中原中率いる神奈川戦でした。前半、神奈川のペースに呑まれ自分達の思う様なプレーが出来ず7点ビハインドで後半を迎えました。「自分達の力はこんなもんじゃないだろう。」監督、コーチの言葉に背中を押され、ベンチからの声に支えられて全員ハンドで逆転勝利を掴みました。

決勝戦は二連覇を狙う山口です。堅い守りとクイックスタートに押され苦しい試合でしたが、最後まで仲間を信じて戦うことで優勝を手にすることが出来ました。仲間と抱き合って喜んだあの時間は一生忘れません。この様な素晴らしい経験を出来たのは、監督、コーチの厳しくも優しい御指導、一緒に戦ってくれた仲間、今まで支えてくれた家族、大会を通じてお世話になったトレーナー、そして何より最後まで戦い抜いてくれたライバル達の存在によるものです。お世話になった全ての方々に感謝しています。

本当にありがとうございました。

戦　評

男　子

■準決勝

大分県選抜　29（13－5、16－9）14　鹿児島県選抜

鹿児島選抜は3番大山のディスタンスシュートで先制するが、大分県選抜も2次速攻から7番村上のディスタンスシュートで取り返す。大分県選抜は9番広沢の速攻、3番山田のディスタンスシュートなど連続得点を決め、前半7分、5対1と優位に進めていく。その後はお互いシュートミスやGKの活躍がありロースコアの展開となる。鹿児島選抜はチームタイムアウトをとり、ポジションチェンジやサイドシュートで得点を狙うが、大分県選抜はGKを中心とした組織的なDFで得点を許さず、逆に速攻で得点を積み重ね、前半を13対5大分県選抜リードで前半が終了する。

後半開始直後、4連取で大分県選抜が差を広げる。鹿児島県選抜もダブルポストで攻撃を組み立てようとする。さらに4：2DFにシステムチェンジをするが、大分県選抜は、視野の広い11番本田のサイドへの飛ばしパスや、カットインで対応する。鹿児島県選抜は9番岩下を中心にして攻め、14番丹下や13番時任などが得点するも、試合終盤まで攻守にわたって足を止めなかった大分県選抜が終始主導権を握り、2年連続決勝戦に駒を進めた。

茨城県選抜　20（9－11、11－5）16　沖縄県選抜

試合序盤、茨城県選抜はDFからの速攻を中心とした攻撃で加点していくも、沖縄県選抜もDFの隙を突き追随するというスピーディなゲーム展開になる。沖縄県選抜は11番富里のスカイや6番平中のサイドシュートで2点リードを奪うが、茨城県選抜も5番青山の得点で追いつく。21分、沖縄県選抜は連続得点を決め、このまま主導権を握れると思いきや退場者を出してしまう。しかし数的不利な状況の中、GK島袋の再三の好セーブによりピンチをしのいだ沖縄県選抜が2点リードで前半を終了する。

後半、沖縄県選抜は一時4点差までリードを広げ、ペースを掴みかける。そのようなムードを断ち切るように茨城県選抜14番柿沼がシュートを立て続けに決め、14対13の1点差と詰め寄る。後半13分、茨城県選抜は退場プレイで得た7mTを決め同点、さらに7番服部が速攻を決め、遂に逆転に成功する。その後は茨城県選抜が主導権を握り、常に2点差をキープしていく。残り1分、沖縄県選抜はマンツーマンDFをしかけるが逆転する力は残っておらず、そのままタイムアップ。GK中村を中心とした堅い守備からの速攻を展開した茨城県選抜に軍配が上がった。

■決勝

茨城県選抜　25（13－10、12－9）19　大分県選抜

試合の立ち上がりは、お互いにサイドシュートで1点ずつ取り合う。茨城県選抜はさらにサイドから得点し、2対1とリードする。平均身長で大分県選抜を上回る茨城県選抜はDFでプレッシャーをかけ速攻につなげようとするが、なかなかつながらず序盤はペースをつかめない。逆に大分県選抜はパスカットから逆速攻で得点するなど、14分までに3点リードとする。このまま大分県選抜のペースになるかと思いきや、茨城県選抜はPVの連続得点やDFをずらしてのサイドシュート、そしてDFからの速攻と多彩な攻撃で5連取逆転し、前半を3点のリードで折り返す。

後半、大分県選抜は速攻で先制するも、茨城県選抜はサイドシュートやフローターのカットインで得点を重ねる。後半6分、18対11と7点差がついたところで大分県選抜がチームタイムアウトを請求。しかし流れを変えることはできず、その後も茨城県選抜は高さのあるDFとGK12番中村の好セーブなどで大分県選抜の追撃を許さない。後半21分、茨城県選抜に退場者が出た際、大分県選抜は3連続得点するが、追い上げできずに試合終了。茨城県選抜は、安定したDFと多彩なOFで4回目の優勝を決めた。

女　子

■準決勝

愛知県選抜　32（20－9、12－17）26　東京都選抜

連続得点をした愛知県選抜が序盤5対2と優位に進める。愛知県選抜14番鈴木のカットインとミドルシュート、13番衣川（直）の速攻が決まり7対3となったところで、東京都選抜がたまらずチームタイムアウト。立て直しを図るが、ミスが続き点差を縮めることができない。愛知県選抜は、13番衣川（直）の速攻や5番衣川（紗）のシュートが決まり差を広げる。東京都選抜も4番山本のディスタンスシュートやDFシステムに変化をつけて追いかけるが、7番安藤を中心にディスタンスシュートやPVを絡めた展開で愛知県選抜が20対9と大きくリードし、前半を終了する。

後半、愛知県選抜7番安藤、東京都選抜4番山本の両エースが得点する。東京都選抜はDFシステムを5：1に変更しリズムを変えようとするが、退場者を出し点差が更に開いてしまう状況。チームタイムアウトでDFを確認し、クロスアタックから11番山根の速攻、途中出場GK16番渡邊の好守で追い上げをみせる。愛知県選抜も14番鈴木のステップシュートや13番衣川（直）のサイドシュートで突き放し、前半のリードを終始キープした愛知県選抜が勝利をおさめた。

山口県選抜　25（11－10、14－9）19　茨城県選抜

序盤は一進一退の攻防が続くが、前半11分、茨城県選抜が速攻を決め、7対4の3点リードとする。ここから茨城県選抜が主導権を握り試合を進める展開になると思いきや、7番福本、2番吉田のミドルシュートが決まり、山口県選抜は9対8の1点差と詰め寄る。前半20分、山口県選抜はエース2番吉田のディスタンスシュートで9対9と追いつく。22分に茨城県選抜の選手が退場となると、山口県選抜2番吉田のカットインや速攻で11対10と逆転し、山口県選抜リードで前半を折り返す。

後半1分、山口県選抜は速攻で2点リードとする。その後、茨城県選抜の選手が退場となり、山口県選抜に試合の流れがいってしまう雰囲気に。そこを茨城県選抜はGK宝田のファインセーブでしのぎ、一進一退の展開になる。後半試合が動いたのは19分、山口県選抜のセットプレーや速攻で4点連取し茨城県選抜を突き離し22対18とする。22分に茨城県選抜がセットオフェンスから7mTを得て、2番キャプテン相澤が決め3点差とするものの、最後に山口県選抜が25対19とリードを広げ、勝利をおさめた。

■決勝

愛知県選抜　22（13－9、9－12）21　山口県選抜

山口県選抜が5番山本のカットインで先制すると、愛知県選抜も14番のディスタンスシュートで得点を返す。序盤は互いに堅いDFで相手の攻撃を防ぎ、一進一退の状況。前半7分、愛知県選抜はけん制DFをしかけ、速攻を中心に5連取しリードする。山口県選抜も7mTなどで3連取し、どちらに流れが傾くかわからない展開になる。前半終盤、山口県選抜がパスカットからの速攻で1点差にするものの、そこから愛知県選抜は、7番安藤のディスタンスシュートなどで3連取し、4点差で前半戦を折り返す。

後半、愛知県選抜がフリースローから13番衣川（直）が飛び込み、得点。山口県選抜も8番横田が速攻で取り返す。DFからの速攻、クイックスタートなどスピーディな展開で進む。後半7分、愛知県選抜に退場者が出ると、山口県選抜はけん制DFをしかけ、5番山本のカットインで2連取するなど徐々に差をつめる。愛知県選抜も7番安藤の個人技で得点するが、山口県選抜の追撃を止められず、後半14分、7番福本が7mTを決め1点差になる。退場者が出た愛知県選抜であるが、数的不利の状況を豊富な運動量で耐え、愛知県選抜が初優勝を決めた。

全日本社会人ハンドボールチャレンジ2014







【最終順位】
優勝：長崎社中
2位：HC 和歌山
3位：HC 岐阜
4位：岩国クラブ

全日本社会人ハンドボールチャレンジ 2014 大会を振り返って

全日本社会人ハンドボール連盟理事長　春日井 条治

本大会は、一昨年度より「全日本社会人ハンドボールチャレンジ」と名称変更され、今回第３回大会として山口県周南市のキリンビバレッジ周南総合スポーツセンターにて開催されました。

今回、７月に開催いたしました全日本社会人ハンドボール選手権大会と同じ山口県周南市にて開催できたのは、山口県ハンドボール協会様、周南市様、（公財）周南市体育協会様ならびに、大会関係者の皆様、ご協賛頂いた企業様、他多くの方々のご尽力・ご協力の賜物であり、心から感謝とお礼を申し上げます。

今大会は昨年度優勝の大同クラブなど昨年度参加の数チームが参加することができないことになりましたが、初出場のチームが警視庁クラブ・HC 岐阜・HC 和歌山・香川クラブ・SFIDA 山口・下関クラブ・長崎社中と７チームあり、昨年度より１チーム多い 19 チームの参加で連日熱戦が繰り広げられました。今年度も参加 19 チームに出来るだけ多くの試合をして頂き、大会の活性化および大会を通じて強化を図る目的で、順位トーナメント戦敗者チームには敗者トーナメント及び交流戦を実施致しました。

チームによっては、１日２試合のハードスケジュールではありましたが、目的どおり他チームとの親睦を深めつつ、技術向上へも繋げられたのではないかと思います。

さて、大会は各試合とも白熱した試合展開であり、昨年度３位チームの八光自動車工業が、２回戦で地元 SFIDA 山口に敗れ、昨年度準優勝の新日鐵住金名古屋が３回戦で HC 和歌山に敗れるなど波乱の展開となり、各チーム実力伯仲の中、勝ちに拘ったレベルの高い大会であったと思います。また地元山口県チームの活躍が目覚しく、４位となった岩国クラブを筆頭に優勝した長崎社中に３回戦であと一歩と肉薄した SFIDA 山口など大会を大いに盛り上げていただきました。

今年度も昨年度に引き続き「社会人連盟レフェリーコース」が本大会中に開催されました。筆記試験・体力テスト、大会中の実技試験に合格するとＢ級審判員の資格が取得でき、この先の審判活動の幅を広げる事が出来るため、毎回各社会人チームからの参加があります。今回も高知クラブにて活躍された OB1 ペアの参加がありました。このように次世代のレフェリー育成の場として本大会が活用される事は非常にうれしく思いますし、ハンドボール界発展にも大きく貢献できたのではないかと感じております。

来年度のチャレンジ大会開催地については、岐阜県岐阜市での開催を予定しており、岐阜県ハンドボール協会様の絶大なるご理解ご協力に深く感謝申し上げます。

当連盟としても、社会人ハンドボールの益々の活性化を目指し、今後もより広い範囲で参加を募り、より多くのチームが参加できる大会運営を目指しますので、関係各位のご協力を宜しくお願い致します。

戦　評

【3 位決定戦】

HC 岐阜　31（16 － 12、15 － 15）27　岩国クラブ

３位決定戦は HC 岐阜対地元岩国クラブ。HC 岐阜のスローオフで始まり先制点は HC 岐阜。岩国クラブもすぐに１点を返すが、HC 岐阜はその後流れをつかみ、№３八代の得点などで８分過ぎには６対２とリードする。岩国クラブも№11 森本のサイドシュートなどでくいさがるが、HC 岐阜のクイックスタートからの２次速攻を守ることができず、なかなか追いつくことができない。HC 岐阜は終盤２本の 7mT などで突き放しにかかるが、岩国クラブ GK №12 大立の好セーブに阻まれ突き放すことができず、前半を 16 対 12、HC 岐阜４点リードで終えた。

後半、立ち上がり岩国クラブは連続得点で８分過ぎに 19 対 18 と逆転する。その後一進一体の攻防が続くが、中盤に入り岩国クラブ№14 藤長の退場をきっかけに流れが HC 岐阜に傾き４連続得点にてリードする。岩国クラブはタイム

アウトを取って流れを変えようとするが、終盤も流れを変えることは出来ずゲーム終了。31 対 27 で HC 岐阜が勝利した。

【決勝】

長崎社中　25（14 − 7、11 − 10）17　HC 和歌山

決勝は昨年度準優勝の新日鐵住金名古屋を 3 回戦で破って進出した HC 和歌山と順調に勝ち上がってきた長崎社中の対決。共に初優勝を目指す。

HC 和歌山のスローオフにて試合開始。立ち上がり長崎社中が№ 13 岩尾のステップシュートで先制。一方 HC 和歌山は長崎社中の高い 3 − 2 − 1 ディフェンスを攻めあぐむ。長崎社中は№ 8 竹田の速攻や№ 14 相川のミドルシュートなどで 5 分過ぎには 6 対 0 とリードする。HC 和歌山も 6 分過ぎに№ 5 吉村のステップシュートで 1 点を返し、11 分過ぎから長崎社中№ 7 岩尾の退場をきっかけに 5 連取し 15 分過ぎには 8 対 6 と 2 点差まで追い上げる。その後、長崎社中がタイムアウトを取ると流れは長崎社中に戻り、GK № 12 古田の好守からの速攻やカットインで確実に加点し、14 対 7 の長崎社中 7 点リードで前半を終える。

後半に入り一進一退の攻防が続くが、HC 和歌山が№ 14 永井のサイドシュートやステップシュートなどで中盤より徐々に追い上げ、16 分過ぎには 18 対 16 と 2 点差まで詰め寄る。しかしその後長崎社中は№ 4 保坂の連続得点で流れを引き戻し、終盤堅守からの速攻を中心に 5 連続得点で HC 和歌山を引き離し、25 対 17 で長崎社中が勝利し初優勝を飾った。

【優勝】長崎社中





全日本社会人チャレンジ 2014 を振り返って

長崎社中主将　三宅　潤

はじめに、全日本社会人チャレンジ 2014 の開催にあたり、諸準備や大会運営等にご尽力を賜りました日本ハンドボール協会、並びに全日本社会人ハンドボール連盟、山口県ハンドボール協会をはじめとします関係各位の皆様方へ心より感謝申し上げます。

この度の全日本社会人チャレンジ 2014 において、初出場・初優勝を果たすことができました。これも一重に日頃からご支援・ご声援を頂いております長崎県ハンドボール協会の皆様をはじめ、ご家族の皆様、大会派遣にご尽力頂きました各職場の皆様のおかげだと思っております。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

長崎社中は 2014 年長崎がんばらんば国体に向けて、4 年前に結成され、今年が集大成の年であります。「社中」という言葉には「同じ志を持った者が集う場所」という意味があり、地元国体を成功させるという「志」に向かって、日々トレーニングに励んでいます。

今大会は 1 回戦から決勝戦までの 4 試合すべての試合において 3：3 ディフェンスで戦い貫くという目標を掲げ、試合に臨みました。

ディフェンスに関しては、① 1：1 の強化、②フォローの徹底、③声をかけ合っての連携の 3 つのポイントに重点を置いて取り組んできました。まだまだ課題は多く残りますが、今大会においては少しずつチームのディフェンススタイルが表現できたと思います。

オフェンスに関しては、以前から取り組んでいる、①ディフェンスの間隙をねらう、②ボールを受けて一歩でシュートを狙う、③バックステップの 3 つのポイントを念頭に置き、誰がどのポジションに入っても同じ戦術で戦えるようにチーム内で共通理解を図ってきました。その結果、大会期間中にけが人が出るアクシデントもチーム全体で補い、自分たちがすべきことを徹底するという意識を高く持つことができたことが勝因であると考えます。

今年はいよいよ長崎がんばらんば国体。私たちにとって勝負の年を迎えます。残された時間を大事にし、周囲の皆様への感謝の気持ちを忘れず、より一層精進致しますので、今後ともご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

平成26年度 事業計画

平成26年4月1日　公益財団法人 日本ハンドボール協会

ハンドボール競技は世界190カ国の国と地域が参加するビッグスポーツの一つです。日本ハンドボール協会はハンドボールの持つ魅力・素晴らしさを沢山の人々と共有し、発展させるべく様々な活動を展開して参ります。

前年度に2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定、更に2019年12月に女子世界選手権の日本開催が決定し、日本ハンドボール界にとって今までにない「大きな具体的な目標」を持つことが出来ました。

これに伴い日本のスポーツ界の国際競技力向上に向けたより具体的な取り組みが強力に推進されることとなります。その中で、オリンピック常時出場、世界選手権常時出場、そこでのメダル獲得に向けた活動と結果がより強く求められて参ります。この目的に向かって、総力を結集して取り組んで参ります。そしてハンドボール競技の更なる注目度アップ、競技人口の拡大に向けてあらゆる角度から事業を推進して参ります。

1. 競技力向上に関する事業

《強化》

【基本方針】

1. リオ五輪出場権獲得に向け、最大限の準備を実施する。
2. 東京五輪、熊本女子世界選手権でのメダル獲得を目指した強化活動を推進する。

【重点施策】

1. 海外拠点の選考、交渉、決定
   代表チームの対外試合の少なさは、日本の強化にとって致命的であり、海外に拠点を設け、そこを中心として色々なタイプのチームとのゲームを多くこなす。また、個人が海外チームでプレーしやすい環境を提供できるようにする。
   選考条件としては、良い練習環境が整っている、良い指導者がいる、食住環境が整っている、治安が良い、安価であるなど。
2. 東京へのチームビルドはリオ後と考え、現在高校からJHLまで広がりのある候補選手を「東京五輪強化指定選手」とし、個のフィジカル強化と競技の基礎技術であるフェイント力、ハンドリング、フットワーク力、ディフェンス力などの向上と判断力の養成を計画的に実施する。
3. JISS（国立スポーツ科学センター）の支援を受け、スマートシステムの効率的運用や、個々の選手の体力・傷害の有無などをデーターベース化し集積管理、フィジカルの強化と傷害の予防に努める。
4. 強化本部組織の基盤を整える。「オリンピック強化戦略プロジェクト」の設置に伴い、国際、総務、広報などの機能を充実させ、現場がより「強化活動」に専念しやすい環境を整える。
5. JOCのナショナルコーチアカデミーや在外研修制度を活用し、トップ指導者の養成を推進する。特に代表スタッフの語学力は必須になりつつあり、日本の国際競技力を上げるためにも積極的に取り組む。
6. 他競技からのタレント発掘方法を研鑽する。
7. ゲーム分析、テクニカル分析などアナリストの養成に努める。
8. アンチドーピングの徹底

《発掘・育成》

【基本方針】

1. NTSでの指導者育成、選手発掘に最注力し、JHAジュニアアカデミーでの育成を図る。

【重点施策】

1. 世界基準の把握、情報収集、技術委員会、NTS委員会との連携
   （1）各国際大会（アジア選手権・世界選手権）の視察、情報、分析活動の徹底
   （2）NTSで指導方針（日本が目指すもの）について情報配信を常に行う
   （3）JHAジュニアアカデミーでは、大型選手を中心に個の力を最大限伸ばす事に努める
   （4）競技力を高めると共に、人間力をも教育していく

2. 普及・指導に関する事業

《普及関係》

【基本方針】

1. 少年チーム（U-15,U-12）の創設と小中学生大会の活性化を促進する。
2. ハンドボールを全ての人に経験してもらうために小学校教科ハンドボール授業実践の推進を図る。
3. 生涯ハンドボール体系を確立させる。

【重点施策】

1. U-12のゲーム様式の浸透を図る
2. 学校ハンドボール授業実践の国際交流を進める
3. ビーチハンドボールの組織整備と普及
4. マスターズ委員会の組織整備と普及
5. クラブチームの育成と支援を行う

《指導関係》

【基本方針】

1. 指導委員会の組織力向上（ブロック・都道府県指導委員会の活性化）を図る。
2. 指導者の育成を推進し、研修事業を実施する。
3. 海外情報収集をより積極的に行う。
4. 指導者資格の制度化を推進する。

【重点施策】

1. 公認指導者組織の整備（養成・研修・在り方検討）
2. 計画的な指導者研修の実施（強化本部・NTS・小・中学生専門委員会との連携）
3. 大学における指導者養成の拡充
4. 公認指導員制度の強化を図る

3. 競技運営に関する事業

【基本方針】

1. 2019年、2020年を踏まえた競技運営の組織を立ち上げ、その準備をスタートする。
2. 平成27年度実施に向けて日本選手権大会の計画を進める。
3. 高校選抜大会のスケジュール変更を推進する。
4. 日本協会主催、共催大会及び国際大会を「大会運営マニュアル」を基本に管理運営にあたる。
5. 検定制度の充実、競技用具の開発にあたる。

【重点施策】

1. 日本選手権を含め大会スケジュールの見直しを進める
2. 大会運営マニュアル、競技運営マニュアルの改訂、TDの任務マニュアル改訂・充実を図る
3. TDを含め競技役員の資質向上を図るため、競技役員講習会を開催する
4. 競技用具の改良、開発を図る

4. 競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】

1. 組織（システム）の改善と指導体系を確立する。
2. レフェリーの発掘、育成および拡大をする。
3. 国際基準に沿ったトップレフェリーの強化をする。
4. 競技規則の徹底を図る。
5. 2019年、2020年を見据えた国際レフェリーの育成をする。

【重点施策】

1.組織の改善と指導体系の確立
(1) 各委員会の活性化を図るため、組織の改善と事業内容を見直し、計画的な取組みを実践する。
(2) 各ブロック審判長・都道府県審判長の指導力向上と指導体系の確立を図り、全国のレフェリーに国際基準に沿った判定基準と正しい運用方法が浸透するよう指導を行う。
2.レフェリーの発掘、育成及び拡大
(1) JHA レフェリーコース・A/B 級審査会などとの連携強化を図る。
(2) 高体連、学連、社会人連盟と連携しレフェリーを育成する。
(3) レフェリー登録数の増加を図る。
3.国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
(1) 全日本総合・日本リーグなど、トップゲームにおける国際基準の判定を徹底させるため、技術・情報の分析および伝達を迅速に行う。
(2) レフェリーアカデミーを更に推進させる。
(3) トップレフェリー研修会を実施する。
4.競技規則の徹底
(1) 競技規則の正しい運用を目指し、各地講習会の内容統一とともに、『審判員の目標』を徹底させる。
(2) 競技本部とのタイアップにより、講習会に指導者やプレーヤーの参加を働きかけるとともに、NTS への参加、レフェリーシンポジュームの開催など相互理解を目指す。
(3) 全国大会担当レフェリー研修会を実施する。
5.2019 年、2020 年を見据えた国際レフェリーの育成
(1) IHF/AHF レフェリーの育成と併せ、国内レフェリーにも最新の国際情報を提供する。
(2) 有望レフェリーの海外研修派遣を計画する。

5. 総務に関する事業

【基本方針】
ガバナンス、コンプライアンス体制の充実により、適正かつ円滑な事業執行と事業進捗のスピード化を図ると共に、引き続き業務の効率化に努める。

【重点施策】
1.円滑な事業推進に向けた業務の効率化
2.事務局業務の整備・充実
3.コンプライアンスの徹底
4.環境保全活動の実践活動の継続
5.個人情報保護法の遵守と徹底
6.公益財団法人移行に伴う諸規定の見直し(未整備分)

6. 国際に関する事業

【基本方針】
1.世界各国のハンドボール連盟との連携を図り国際貢献に努める。
2.日本ハンドボール協会および各連盟、チームなどへの国際的活動支援を行う。
3.国際大会等の支援(連絡・交渉・情報収集)を行う。
4.国際会議への参加と支援を行う。
5.2019 年女子熊本世界選手権開催に向かっての国際事業を検討する。
6.2020 年東京オリンピックに向けての国際事業を検討する。

【重点施策】
1.IHF・AHF・EAGF 総会ならびに会議など出席とその連携
2.2019 年、2020 年開催に向けた具体的な国際アクションプラン検討
3.日本代表チームなどの海外国際大会派遣などの事務的なサポート
4.レフェリー・テクニカルデレゲート・レクチャラーなど派遣とサポート
5.国際会議並びに世界選手権等の国際試合への参加及び情報収集
6.海外情報収集とその活用、海外移籍の事務的サポート
7.次世代の国際担当者の新規発掘と育成継続とその効果拡大
8.その他各国連盟との日常のやり取り促進

7. 財務・会計に関する事業

【基本方針】
平成 26 年度も財務状況を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。諸事業の円滑な推進のために収入面においては、マーケティング委員会を中心とした協賛活動や支援獲得活動の取り組みと各種補助金助成金の有効活用を図る。支出面では、各事業において計画的予算執行を依頼し、効率の良い事業運営を推進していく。また、2019 年女子世界選手権開催にむけ、財源確保に取り組んでいく。

【重点施策】
1.適正な予算配分と管理の徹底
2.マーケティング委員会を中心とした各種運営費の積極的な財源確保
3.各種補助金助成金の積極的活用
4.2019 年女子世界選手権開催にむけた財源確保
5.2020 年に向けた強化資金の獲得推進

8. 広報に関する事業

《広報事業》

【基本方針】
1.2019 年、2020 年に向けムーブメントの創生を図る。
2.注目度アップ、バリューアップに繋がる情報の発信を図る。
3.協会事業の周知徹底を図る。
4.マスコミとの交流を拡大する。
5.協会広報のタイムリーかつスムーズな運営を図る。
6.インターネット情報の充実・拡大を図る。

【重点施策】
1.代表チームの情報発信の充実
2.マスメディアへの積極的情報発信
　プレスリリース・記者発表・記者会見・定期懇談会の実施
3.ホームページの充実
4.インターネットと機関誌の連携充実
5.トップリーグ連携機構との連携活動
6.過去の記録のデーターベース化
7.組織の強化
8.マーケティングとの連携によるバリューアップ活動の推進

《インターネット》

【基本方針】
新たな情報発信方法の実施と円滑な運営に取り組み、情報提供の充実と作業の効率化・スピードアップを図る。

【重点施策】
1.日本協会ホームページの充実
(1) 2019 年、2020 年を踏まえた広報活動の計画化、充実を図る。
(2) 代表チームの情報発信の充実を図る。
(3) 新たな情報発信方法の検討し実施する。
(4) 試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実を図る。
2.ホームページ等、円滑な運用のための体制強化を図る。

9. 機関誌発行に関する事業

【基本方針】
機関誌発行を通じ、日本協会方針・計画の徹底と都道府県協会・各連盟等日本協会組織全体の情報共有化と連帯感の高揚を図る。又、協会活動経緯の一覧性・保管性を提供し、ハンドボールの指導・普及・強化等夫々の活動関係者に様々な関連情報を伝えることにより、ハンドボール界の発展に寄与する。

【重点施策】
1.施策方針・理事会・各委員会組織からの情報発信としての場、都道府県協会からの情報発信としての場として、機関誌をより効果的な利用を追及する。
2.インターネット掲載情報との密接な連携を図り、機関誌と相互の情報の質を高めることで、情報発信機能の役割を高める。
3.大会報告記事では単に報告に留まらず、大会を取り巻く様々な状況などを掲載することで、大会の特徴など読者の興味に応える掲載を図る。
4.機関誌のあり方・掲載内容については適宜見直しを図り、常に機関誌の役割と特徴を意識した運営に努める。
5.年間 8 回の発行回数を維持する。
6.2019 年、2020 年を踏まえた掲載・企画を作る。

10. 企画に関する事業

【基本方針】
1.日本ハンドボール協会の現状分析を行い、短期・中期事業計画を立案検討する。
2.日本ハンドボール協会の国内スケジュールを国際スケジュール対応型に変更する検討を開始する。

【重点施策】
1.社会人連盟の拡大・充実を図る
2.日本選手権構想実現に向けて、各本部と連携して具体的検討を行う
3.2019年女子世界選手権大会開催に向けた準備

11. マーケティングに関する事業

【基本方針】
1.2019年、2020年の決定に伴い、大きなバリューが生まれたことによる、マーケティング活動の更なる推進を図る。
2.ハンドボールが持っているあらゆるバリューの創出を図り、マーケティング活動を行う。
3.日本協会の収入の大きな柱となるマーケティング収入の確保・拡大を図る。

【重点施策】
1.マーケティング収入目標4,000万円
(1) オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大
(2) 大会協賛金の確保
(3) ナショナルユニフォーム広告等
(4) 機関誌、プログラム広告等
(5) 物品販売
2.新規協賛企業の開拓、拡大
3.2019年、2020年に向けた特別協賛企業の獲得に向けた活動
4.オリジナルグッズ、DVD等の企画販売（日本協会、日本リーグ）
5.各種イベントの企画（ハンドボールマンゴルフ大会・スポンサー感謝の集い他）
6.協会主催大会及び各都道府県・各連盟に対するマーケティング活動の指導並びに、協賛パートナーの拡大・協力
7.JOC、トップリーグ連携機構との連携・協力によるマーケティング活動の向上
8.「イベント会社」、「グッズ企画販売会社」、「広告代理店」等の中からも新たなマーケティング活動のチャンスを開拓
9.事務局にマーケティング担当の固定化を図り、各委員の担当を明確にして推進

12. 日本リーグに関する事業

【基本方針】
日本リーグの理念に基づき、地域に根ざしたホーム＆アウェイでスポーツのステータスを向上させ、日本リーグの選手が国際大会で戦い抜く競技力向上に努めると共に、日本協会強化部と連携を図り日本代表チームの強化を支援してゆきます。
集客数の改善に効果的な施策の1つとして集客指定試合を各チームに義務づけ企画、運営等、独自性のある大会運営にしてゆきます。
財政基盤の確立のため2年目を向かえたマーティング部の充実を図り、日本リーグ40回記念大会の企画・立案にも注力してゆきます。
未来の日本リーグ選手を夢見る子供達のために地域に密着した環境作りを推進すると共に「新規加盟チームの開拓」、「チャレンジ・ディビジョンチームの参加拡大」に努めてゆきます。

【重点施策】
《総務部》 円滑で活気に満ちた大会運営の基盤構築
1.集客指定試合の成功及び効果最大化にむけた取り組み
2.開催地責任者及びGM合同研修会の活性化
3.社会貢献活動の推進
4.円滑な大会運営にむけた取り組み
《チャレンジディビジョン》 トップリーグ参入チームの発掘
1.参加チームの競技力向上及び体力強化支援
2.トップリーグ参入への支援体制整備
《広報部》 メディア、ファンに対する情報発信
1.日本リーグ40回大会プロジェクトの充実
2.集客アイテムとして全国で使用できるポスター作成
3.全試合インターネット放映の実現
4.試合開催情報の充実化
《マーケティング部》 リーグ機構の収益拡大
1.リーグスポンサーの獲得
2.リーグ各チームのマーケティングの一括管理
《競技・審判部》 レフェリーの技術向上及びチームとの共通理解
1.コーチ及びレフェリー合同研修会開催
2.JHLオフィシャル研修開催
3.チャレンジディビジョンへの若手レフェリーの招聘
《スケジュール部》 強化部と連携を図りスケジュールの設定
1.運営経費軽減を重視したスケジュール
2.活性化及び観客動員に結びつく日程調整
3.第3地域への公募拡大
4.40周年記念大会に合わせたスケジュール
《JHLジュニアリーグ》 全ジュニアーチームの設立による日本リーグの活性化
1.未実施チームの現状把握と設立に向けた情報提供
2.交流会の充実
3.開催場所の計画立案（全国公募）
4.東西リーグチーム分けの検討

13.『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】
2019年、2020年を踏まえて「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」、「ハンドボールのバリューアップ」という本来の目的を踏まえ、サポート会員の拡大、拡充を図ると共に、各連盟、各都道府県協会との連携を図り、20万人を目指す。

【重点施策】
1.各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
2.会員への情報、サービスの拡充
3.会則、諸条件の見直し・充実

●イベント
・表彰
・記念式典
・各種セミナー
・各種パーティー
・国際会議

●業務渡航
・海外航空券手配
・海外ホテル手配
・査証手続き
・トラベルサポート

●教育・研修旅行
・修学旅行
・語学研修
・ホームステイ
・各種体験学習
・ゼミ・各種合宿

●団体旅行
・社員旅行
・インセンティブ旅行
・視察旅行・研修旅行・海外スポーツ遠征
・国内スポーツ合宿
・貸切バス・周年旅行

●訪日外国人旅行
・公官庁主催招聘プログラム手配
・訪日されるお客様に合わせたプラン

AMOK Enterprise co.,ltd.
株式会社 エモック・エンタープライズ
観光庁長官登録一種旅行業1144号 （社）日本旅行業協会（JATA）正会員
●東京本社
〒105-0003 東京都港区西新橋1-19-3 第2双葉ビル2F TEL 03-3507-9777 FAX 03-3507-9771
●大阪支店
〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-8 タイリンビル7F TEL 06-6203-7999 FAX 06-6203-7991
http://www.amok.co.jp/

平成26年（2014年）度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	備考（開催場所等）
4月	※第11回東アジアクラブ選手権（男・女）	4月25日（金）－4月28日（月）	中国・重慶市万州区	JHL プレーオフ優勝チーム
	※東アジア連盟総会	同上大会中予定	中国	
6月	日体協公認コーチ養成講習会（専門科目）	未定	東京都・北区（案）	味の素ナショナルトレーニングセンター（案）
	※第19回ヒロシマ国際大会兼日韓定期戦2014	6月13日（金）－6月15日（日）案	広島県・広島市	男女ナショナル
	※第2回U-22東アジア選手権（男・女）	6月25日（水）－7月4日（金）案	香港	男女U-22
	※第19回女子ジュニア世界選手権	6月29日（日）－7月13日（日）	クロアチア・	女子ジュニア（U-20）
7月	高松宮記念杯第4回全日本社会人選手権	7月2日（水）－7月6日（日）	愛知県・名古屋市	中村スポーツセンター、枇杷島スポーツセンター
	西日本学生選手権大会（男子）	7月4日（金）－7月8日（火）	徳島県・徳島市	徳島市立体育館他
	第34回全国クラブ選手権大会・西地区大会	7月12日（土）－7月13日（日）	高知県・高知市、春野市	未定
	第34回全国クラブ選手権大会・東地区大会	7月12日（土）－7月13日（日）予定	福島県・本宮市（予定）	本宮市総合体育館、本宮市立本宮第一中学校体育館、福島県立本宮高校体育館
	※第5回女子ユース世界選手権	7月20日（日）－8月3日（日）	マケドニア・	女子ユース（U-18）
	第17回ハンドボール研究集会	7月28日（月）－7月29日（火）	茨城県・つくば市	筑波大学
8月	第22回全日本マスターズ大会	8月1日（金）－8月3日（日）	沖縄県・浦添市、那覇市（予定）	浦添市民体育館、浦添市屋内運動場、浦添市陸上競技場・武道館（予定）
	第27回全国小学生大会	8月1日（金）－8月3日（日）予定	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館他（予定）
	高松宮記念杯第65回全日本高校選手権大会	8月2日（土）－8月7日（木）	神奈川県・川崎市、横浜市	川崎市とどろきアリーナ、川崎市多摩スポーツセンター、川崎市立橘高校体育館、横浜市平沼記念体育館
	※第14回男子ジュニアアジア選手権	未定8月2日（土）－8月14日（木）	未定	男子ジュニア（U-21）
	※第22回世界学生選手権（男・女）	8月3日（日）－8月10日（日）	ポルトガル・ブラガ、ギマランイシュ	大学生
	第19回ジャパンオープントーナメント・和歌山国体リハーサル大会	8月9日（土）－8月12日（火）	和歌山県・和歌山市、紀の川市、岩出市	和歌山県立体育館、和歌山市立河南総合体育館、県立和歌山工業高校体育館、紀の川市貴志川体育館、岩出市立体育館
	※第2回ユースオリンピック	8月16日（土）－8月28日（木）	中国・南京	不出場
	NTS ブロックトレーニング	8月上旬－9月上旬	各ブロック	各地
	※第6回日韓小学生親善交流（派遣）	未定	未定	未定
	東日本学生選手権大会	未定	未定	未定
	第43回全国中学校大会	8月17日（日）－8月20日（水）	愛媛県・松山市、伊予市	愛媛県武道館、松山市総合コミュニティセンター体育館、愛媛県総合運動公園体育館、しおさい公園伊予市民体育館
	第41回全国高等専門学校選手権大会	8月19日（火）－8月20日（水）予定	徳島県・鳴門市	鳴門総合運動公園体育館（アミノバリューホール）
	第16回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8月23日（土）－8月24日（日）	愛知県・南知多町	
	※第22回日韓中ジュニア交流大会（受入）	8月23日（土）－8月29日（金）	岩手県・	高校生
	西日本学生選手権大会（女子）	8月27日（水）－8月30日（土）	広島県・広島市	東区スポーツセンター（調整中）
9月	※第6回男子ユースアジア選手権	未定9月4日（木）－9月15日（月）	未定	男子ユース（U-19）
	第34回全国クラブ選手権大会・中地区大会	9月13日（土）－9月14日（日）	愛知県・一宮市	一宮市総合体育館
	※日韓スポーツ交流（派遣／男子）	未定	未定	男子U-16
	※日韓スポーツ交流（受入／男子）	未定	未定	男子U-16
	※第18回日韓スポーツ交流（派遣／女子）	未定	未定	女子U-16
	※第18回日韓スポーツ交流（受入／女子）	未定	未定	女子U-16
	※第17回アジア競技大会	9月19日（金）－10月4日（土）	韓国・仁川	男女ナショナル
10月	第69回国民体育大会	10月16日（木）－10月20日（月）	長崎県・佐世保市	佐世保市東部スポーツ広場体育館・長崎県立佐世保西高等学校体育館・海上自衛隊平瀬体育館・海上自衛隊佐世保教育隊体育館・佐世保市体育文化館
	第39回日本リーグ（レギュラーシーズン）	10月25日（土）－	各地	
11月	※第4回アジアビーチゲームズ	11月14日（金）－11月21日（金）	タイ・プーケット	ビーチハンドボール
	第12回日本車椅子競技大会	11月22日（土）－11月23日（日）	徳島県・鳴門市	鳴門総合運動公園体育館（アミノバリューホール）
	高松宮記念杯男子57回女子50回全日本学生選手権	11月22日（土）－11月26日（水）	岐阜県・岐阜市、各務原市	岐阜メモリアルセンター（で愛ドーム・ふれ愛ドーム）、ヒマラヤアリーナ、各務原市総合体育館
	※第15回女子アジア選手権	未定11月27日（木）－12月7日（日）	未定	女子ナショナル
12月	第23回JOCジュニアオリンピックカップ	未定	福島県・福島市	県営あづま総合体育館、福島市国体記念体育館
	第66回全日本総合選手権大会	12月24日（水）－12月28日（日）	愛知県・名古屋市	愛知県体育館、枇杷島スポーツセンター
1月	NTS センタートレーニング（高校生）	1月4日（日）－1月6日（火）	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	NTS センタートレーニング（中学生）	1月10日（土）－1月12日（月）	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	※第24回男子世界選手権	1月17日（土）－2月1日（日）	カタール・ドーハ	不出場
2月	全日本社会人チャレンジ2015	2月6日（金）－2月8日（日）	岐阜県・岐阜市	ヒマラヤアリーナ
3月	第39回日本リーグプレーオフ	3月21日（土）－3月22日（日）予定	未定	未定
	第10回春の全国中学生選手権大会	3月25日（水）－3月29日（日）	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター他
	第38回全国高校選抜大会	3月25日（水）－3月30日（月）	愛知県・豊田市、岡崎市	スカイホール豊田・岡崎中央総合公園体育館

2014.02.20現在　※は国際大会

平成25年度　チーム数・選手数一覧表

2014年2月末

	都道府県	一般L		一般A		リージョナル		大学		高専		高校		中学校		中学少年団		小学校		小学少年団		合計	
		チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	10	195	10	131	38	574	3	63	58	1300	16	359	2	13	4	34	8	93	149	2762
2	青森県	0	0	11	213	0	0	6	93	1	18	18	388	3	16	1	14	0	0	0	0	40	742
3	岩手県	0	0	9	136	19	267	5	90	1	14	35	727	32	772	0	0	2	46	4	120	107	2172
4	宮城県	1	16	5	74	0	0	12	203	2	26	42	1079	19	451	0	0	2	12	4	44	87	1905
5	秋田県	0	0	7	107	0	0	3	54	1	19	12	261	8	127	0	0	0	0	0	0	31	568
6	山形県	0	0	5	84	1	10	2	37	1	21	19	478	5	74	0	0	0	0	0	0	33	704
7	福島県	0	0	8	107	0	0	3	44	0	0	45	835	30	767	0	0	8	125	2	27	96	1905
8	茨城県	0	0	6	90	9	128	4	80	0	0	59	1060	38	724	0	0	12	160	6	88	134	2330
9	栃木県	0	0	4	61	2	11	1	0	0	0	16	330	14	282	0	0	5	78	2	13	44	775
10	群馬県	0	0	8	129	2	26	2	45	0	0	19	388	17	357	0	0	2	35	0	0	50	980
11	埼玉県	1	23	11	178	0	0	8	156	0	0	87	2098	55	1114	0	0	6	34	2	4	170	3607
12	千葉県	0	0	8	141	2	28	8	193	0	0	61	1306	37	694	1	9	14	140	2	21	133	2532
13	東京都	0	0	30	571	48	763	54	1115	2	34	146	3174	54	741	2	11	12	140	4	28	352	6577
14	神奈川県	0	0	10	159	7	67	16	379	0	0	153	3020	108	2275	0	0	13	135	1	12	308	6047
15	山梨県	0	0	6	95	7	98	4	54	0	0	25	469	12	225	0	0	3	36	2	25	59	1002
16	長野県	0	0	5	87	0	0	4	53	0	0	32	580	12	227	0	0	0	0	0	0	53	947
17	新潟県	0	0	5	67	1	9	5	84	1	14	12	269	1	11	0	0	1	15	0	0	26	469
18	富山県	0	0	7	104	6	61	4	70	1	26	20	425	38	784	0	0	15	190	6	71	97	1731
19	石川県	1	16	11	173	2	27	5	87	2	50	24	502	23	460	0	0	2	39	2	47	72	1401
20	福井県	1	18	5	70	2	16	3	47	1	23	15	281	13	312	0	0	5	87	0	0	45	854
21	静岡県	0	0	9	146	0	0	4	66	2	26	44	1122	7	145	0	0	2	16	0	0	68	1521
22	愛知県	4	82	13	238	34	243	35	645	1	27	242	6024	192	4596	13	25	10	73	14	193	558	12146
23	三重県	1	20	5	76	1	0	4	66	2	30	40	864	29	622	0	0	6	74	4	48	92	1800
24	岐阜県	1	13	9	149	0	0	5	98	1	31	48	1141	57	1310	1	0	10	137	6	97	138	2976
25	滋賀県	0	0	3	39	1	10	4	60	0	0	21	511	14	350	0	0	1	18	0	0	44	988
26	京都府	0	0	5	84	7	51	19	281	1	28	33	676	30	556	0	0	18	418	0	0	113	2094
27	大阪府	0	0	7	131	0	0	29	507	1	16	113	2688	63	1151	2	28	0	0	12	171	227	4692
28	兵庫県	0	0	8	149	7	117	12	218	1	19	89	1713	31	655	0	0	7	96	2	12	157	2979
29	奈良県	0	0	6	94	0	0	7	115	1	16	26	533	18	275	0	0	6	74	1	9	65	1116
30	和歌山県	0	0	6	77	7	84	2	31	1	26	19	311	14	144	0	0	5	59	0	0	54	732
31	鳥取県	0	0	4	59	1	13	0	0	1	27	16	278	6	100	0	0	2	26	0	0	30	503
32	島根県	0	0	3	29	0	0	1	15	1	32	11	195	2	29	2	10	0	0	2	16	22	326
33	岡山県	0	0	13	197	8	102	6	136	1	30	50	1111	19	331	1	4	10	136	6	80	114	2127
34	広島県	2	36	5	89	2	27	7	121	1	7	21	344	8	68	2	28	8	100	0	0	56	820
35	山口県	0	0	10	154	3	45	2	29	2	46	28	683	21	417	2	6	4	126	10	185	82	1691
36	香川県	0	0	4	63	0	0	3	64	1	26	21	411	21	447	0	0	4	55	4	65	58	1131
37	徳島県	0	0	2	26	0	0	4	55	1	24	13	242	5	74	0	0	0	0	0	0	25	421
38	愛媛県	0	0	7	133	0	0	6	83	0	0	30	694	6	150	1	18	6	63	0	0	58	1141
39	高知県	0	0	4	59	1	6	4	32	1	19	14	192	9	174	1	0	0	0	2	43	36	525
40	福岡県	0	0	5	81	0	0	15	275	4	94	55	1309	29	579	0	0	3	37	6	76	117	2451
41	佐賀県	1	19	3	47	0	0	2	32	0	0	13	255	8	87	0	0	2	35	0	0	29	475
42	長崎県	0	0	6	93	0	0	2	33	1	30	30	671	14	272	2	27	4	61	1	12	60	1199
43	熊本県	1	22	6	96	0	0	4	61	2	39	53	1244	30	634	0	0	22	432	0	0	118	2528
44	大分県	0	0	3	46	5	69	2	26	0	0	12	213	14	200	0	0	5	64	6	58	47	676
45	宮崎県	0	0	4	51	4	34	2	27	1	27	33	752	19	294	0	0	8	83	2	19	73	1287
46	鹿児島県	1	16	4	69	1	12	5	68	1	17	31	598	13	303	0	0	4	61	2	19	62	1163
47	沖縄県	1	19	11	191	29	420	8	108	2	31	73	1650	57	1464	0	0	30	546	6	147	217	4576
合計		16	300	336	5507	229	2875	381	6710	47	976	2077	45395	1271	26199	33	193	283	4096	131	1843	4804	94094

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

～アジア制覇が五輪への道～

ソチオリンピックの日本は冬季大会では長野大会に次ぐ8個のメダルを獲得した。期待のフィギュアスケートでは男子の羽生が金メダル、女子の浅田は残念ながら前回の雪辱はならずメダルにも手が届かなかった。また"日の丸飛行隊"に復活の兆しが見え、スノーボードの少年は現代っ子らしい度胸の良さを発揮、表彰台に並んだ。

さて、2020年の東京大会に関して気になる話を聞いた。オリンピックには「開催国枠」の出場がある。長い間、晴れ舞台から遠ざかっている日本球界とすれば、20年の東京大会出場は、またとないチャンスであろう。しかし、自動的に出場できるとは限らない競技もあると言われる。1968年メキシコ大会を最後に出場していないホッケー男子、76年モントリオール大会以後は高い壁に阻まれているバスケットボール男子などは、出場の確約はされていないという。結局は予選から勝ち上がってきた出場国とのレベルの差ではないだろうか。

これらのことから考えて、ハンドボールも同様な問題に直面しないとも限らない危機感を持って強化にあたるべきだろう。オリンピックに出場したのは、男子が1988年のソウル大会、女子が76年のモントリオール大会が最後である。

これまでも「出場」を目指して強化策が練られているが、いまだ実を結んでいない。先の男子アジア選手権は世界選手権の予選を兼ねて行われたが、日本は過去最低の9位に終わり「世界の大舞台」を逃がした。アジア選手権は今回で16回を数えるが、日本は創設された1977年と第2回大会に連続優勝して以来、2位が最高だ。第3回から4大会連続決勝で韓国に敗れており、今回で2大会連続の世界選手権出場を逃した。まずはアジアチャンピオンの座をどのようにして奪い返すかである。アジアの中で後れを取っては、世界への視野は開かれないのは明白である。

女子は2012年のアジア選手権で3位になり、昨年の世界選手権には出場したが、2004年の広島大会に優勝しただけで、韓国が圧倒的な強さを誇っている。

まずはリオ五輪に男女ともアジアを制することが命題である。幸い6月には日韓戦が予定されており、秋には韓国・仁川でアジア大会が開かれる。言い換えれば、アジア制覇への道には絶好のチャンスが待ち構えているといってもいいだろう。

リオへの出場権を死に物狂いで勝ち取り、熊本の女子世界選手権、そして東京へつなぐ―。強化策や新しい将来像が描きやすい今シーズンである。日本協会が立ち上げた強化戦略プロジェクトも追い風にしたい。ホッケーやバスケットボールの悲壮感を共有するくらいの抜本的な強化戦略（改革）も必要なのかもしれない。

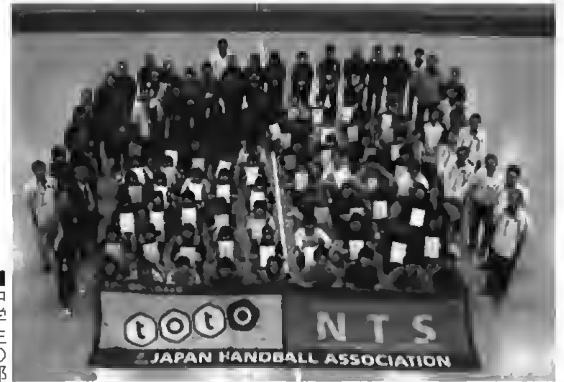


2013年度 NTSセンタートレーニング 報告

NTS委員長　田口　隆



■高校生の部



■中学生の部

【開催日時】
高校生の部：平成26年1月4日（土）～6日（月）
中学生の部：平成26年1月11日（土）～13日（月）

【会場】
味の素ナショナルトレーニングセンター

【参加者】 ※延べ人数
※NTSスタッフ（技術指導・体力測定・運営他）90名、
※補助指導者39名、
高校生男子31名、高校生女子29名、
中学生男子30名、中学生女子27名　　計246名（延べ人数）

2013年度NTSセンタートレーニングを上記の日程で高校生の部・中学生の部と2週にわたり、全国9ブロックより推薦された選手118名の参加のもとに、味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催しました。

高校生の部においては、"オフェンス"を藤本元さん、"ディフェンス＆速攻"を佐藤壮一郎さん、"ゴールキーパー"を北林健治さんに指導いただき、中学生の部においては"オフェンス"をネメッシュ・ローランドさん、"ディフェンス＆速攻"を大城章さん、"ゴールキーパー"を高校生の部同様に北林健治さんに大変熱心にご指導いただきました。

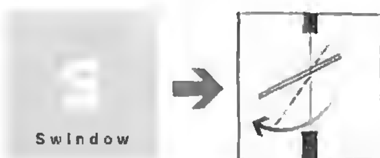
また、中学生の部では市原副会長をはじめ日本協会役員の方々から、激励を頂戴しました。強化スタッフでは、栗山女子代表監督をはじめ、男子U-21松井監督・男子U-19滝川監督＆山口コーチ・男子U-16岩本監督＆近藤コーチ・女子U-20亀井監督・U-18石川監督＆辻コーチ・U-16尾石監督＆麻生コーチからも"代表活動の報告・代表チームでの課題（実技指導）"等、こちらも大変熱心な指導をいただきました。それに加え、知的スキル講義において、今年度は実際に男女アンダー代表選手にも参加していただき（一部ビデオレター）、"生（なま）の体験談"等を披露していただきました。昼間のトレーニングで疲れているにもかかわらず、積極的に先輩選手の話に耳を傾けていました。

2泊3日という限られた時間の中ではありましたが、指導スタッフ陣の熱心且つ精力的な指導のおかげもあり、3日目のゲーム形式での攻防においては"考える"プレーが色々な局面で見られたことが大きな成果ではなかったかと思います。当然のことながら短期間で飛躍的に技術・体力が伸びるわけではありませんが、選手自身の心の奥に今までにも増して大きな"志・夢・目標"が生まれたのではないでしょうか？

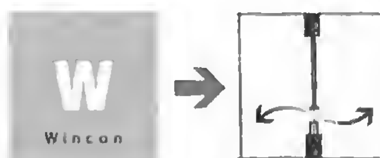
今回のセンタートレーニングを終えて、2019年女子世界選手権・2020年東京オリンピック、その先の将来でこの中から巣立った選手が活躍することを夢見ながら、日本ハンドボール界の永遠の財産となるべく、更なる『NTSの進化』を図っていかなくてはならないと改めて感じました。

最後にこの場をお借りして、センタートレーニングのみならず、ブロックトレーニングの運営・技術指導等でご尽力いただきました関係各位、普段より選手にご指導いただいている指導者の方々のご理解・ご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

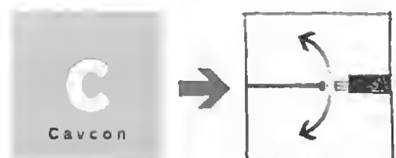
『呼吸する建築』　『ナビ ウインドウ 21』 NAV WINDOW 21



Swindow スウィンドウ



Wincon ウィンコン



Cavcon キャブコン

三協立山株式会社 三協アルミ社　営業開発部
〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル18F　TEL(03)5348-0360 http://www.nav-window21.net/



積み重ねてきたのは、信頼です。

chemicals
information technology
electronic materials
environmental technology
worldwide business

www.emori.co.jp
江守商事株式会社
代表取締役社長 江守 清隆



本社／〒918-8510　福井市毛矢1丁目6-23　TEL.0776-36-1133（代）

ヨーロッパハンドボール連盟主催
ハンドボール科学会議参加録

2nd European Handball Federation Scientific Conference 2013 Reports

森口 哲史（鹿児島大学・日本ハンドボール協会情報科学委員会）
市村 志朗（東京理科大学・日本ハンドボール協会情報科学委員会）

欧州各国を中心として世界中から約100名のハンドボール研究者が集結した第2回ヨーロッパハンドボール連盟（EHF）主催ハンドボール科学会議が、2013年11月22日、23日にオーストリアの首都ウィーンにて開催されました。2日間の会議では80件を超えるプレゼンテーションが披露され、非常に内容豊富で充実した会議となりました。日本からは筆者らを含む5名が本会議に出席し、欧州、北アフリカ、中東地域の専門家たちと議論を交わしました。この会議の概要について、簡単ながらご報告させていただきます。

今回で2回目となる本会議は、「Women and Handball」という大テーマのもとで、各年代カテゴリーの女性ハンドボール選手・チームにおける生理学、体力学、トレーニング科学、心理学、コーチング、ゲーム分析、コンディショニング、傷害予防などの幅広い観点から研究報告がなされました。会議は、EHFプレジデントJean Brihault氏による「我々は、すべての女性ハンドボール関係者をサポートし、さらに進歩させていくための科学的調査に力を注ぐ。」という力強い挨拶からスタートし、主催者側からは、コーチと科学者の連携、そして競技発展のための情報共有の必要性、成功するためには科学教育が重要であるという見解が明確に提示されました。本会議の演題数をみても、ハンドボールにおける科学的アプローチ法が第1回科学会議（2011年開催）よりも多岐に拡がり、より積極的に応用されている印象を受けました。

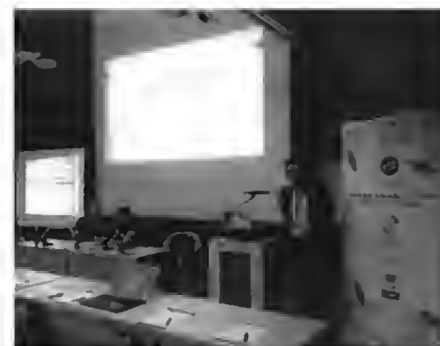
開会挨拶に続いて行われたCarmen Manchado氏（ESP・EHF競技委員）およびFrantisek Taborsky氏（CZE・大学ハンドボールUnion）による基調講演では、女性ハンドボール選手の競技パフォーマンスに関わる生理学的要因、現在までの男女の形態、体力、作業量に関する変遷・比較分析などが紹介されました。そして、コペンハーゲン大学の研究グループによるミニ・シンポジウムでは、女性ハンドボール選手の膝傷害に焦点をあてた一連の研究成果が示され、会場は大いに盛りあがりました。女性ハンドボール選手の傷害に関する疫学的調査から膝疾患に着目し、最新のバイオメカニクス技術を駆使した膝傷害発生のメカニズム・リスク動作を実験的研究により解説を行い、その根拠に基づいた予防的トレーニング法をRCT研究（Randomized Controlled Trial）により確認した、という一連の実証研究が紹介されました。徹底して"科学的根拠"が追求されていたわけです。各国の科学者やコーチたちは、特に若い選手のハンドボール活動現場において、「だれが」・「いつ」・「どのように」傷害予防活動に取り組むのか、という現実的問題に大変興味を持っており、フロアーとシンポジストとの間で極めて活発な議論が展開されていました。



ミニ・シンポジウム中の会議室

本会議の様子はEHFによりネット上でライブ配信され、プレゼンテーション中にも関わらず、世界中のハンドボール関係者からのリアクションが会議室サブスクリーンにリアルタイムで映し出されました。ツイッターを通じて不特定多数が会議に参加できるというソーシャルメディアを活用した新たな試みは、EHFがすすめる情報共有の取り組みの一つであると思われます。いつ悪意のあるツイートが表示されるのかとハラハラしたのは最初だけで、Web参加者からの建設的な反応により私の心配はすぐに払拭されました。会議室はプレゼンテーションとツイッター表示の双方に目を奪われ、プレゼン中から議論が深まるような「仕掛け」が用意されたわけです。

2つの大会議室と1つのコーヒーブレイクスペースを最大限に活用し、夜の20時過ぎまで、40件のオーラルプレゼンテーションと25件のポスタープレゼンテーションがまさに"スシ詰め"状態で進められました。会議で報告された研究成果についていくつかご紹介しましょう。オーラルプレゼンターとして登壇したOliver Coronado氏[1)]からは、ボールサイズの決定に科学的根拠を示す目的で、1600名以上のジュニアハンドボール選手を対象に、利き手のサイズ（親指・中指・小指）から球面尺度"Coverage Index of the Ball"を算出し、ボールを覆うことができる割合を示す新しい指標が示されました。性差や各年代カテゴリーに応じたボールの大きさを科学的に決定できるのではないかとする提案について、会議室をはじめツイッター参加者からの反響は大きく、女子ユースカテゴリーのための異なるボール・サイズ（例えば1号球から1.5号球の採用など）を導入することに関する最初の科学研究として高い関心が寄せられていました。日本選手に当てはめてみると、一般女子選手と高校女子選手で1.5号球、中学生女子選手には1号球を適用する提案となります。手形態とボールサイズが適切で、ボール操作が改善されることは、プレー全体の質を高めるという考えが研究の背景にあります。



研究発表の様子：メインスクリーンの脇にツイッタースクリーンが表示されている。

また、各国のユース・ジュニア世代の体力データに関するポスタープレゼンテーションでは、どの測定種目ではどの国が優れているかなどといった、ポスターフロアならではの微笑ましい国家間対決がはじまりました。Sosa Gonzalez氏[2)]によって示されたスペインエリート女子選手のフィジカルコンディションに関する報告では、Royal Spanish Handball Federation（SHF）のタレントプログラムに所属する平均14.2

歳のトップ選手（137 名、週 3 日以上のトレーニングと 1 日の公式戦）の体力値が示されました。測定項目は、30m 走、立ち幅跳び、垂直跳び、投球スピード（ステップ・ジャンプ）、20m シャトルラン、アジリティテストからなり、すべての体力値がポジション別にまとめられていました。日本ハンドボール協会が実施した国内 U15 選手 81 名の体力測定値（NTS センタートレーニング 2010-2012）と比較すると、短距離スプリント能力、全身持久力の指標である推定 VO_{2max} 値ともにスペイン女子が圧倒的に高く、一方、ジャンプ能力においては日本がやや優れているという結果でした。この年代からすでに “走る能力” に大きな違いが認められているのです。ちなみに、この研究を行うに当たってスペイン協会は、すべての選手本人とその保護者に対してリサーチポリシーを説明し、その両者から同意書を得ており、科学の介入に対して非常に丁寧な倫理的手順を踏んでいます。このスペイン研究チームとの議論の中では、体力測定項目やその設定理由などについても伺うことができ、我々にとっても貴重な情報収集の場となりました。このような場で得られる情報の有益性は、決して学術研究論文誌上から得られるものばかりではなく、情報収集者のちょっとしたアイデア、苦慮している点、今後のビジョン、粗データの確認など、「生の声」が聴けることにあると感じています。

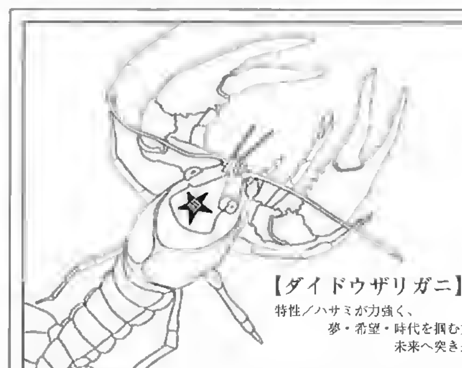
紹介したい研究報告はまだまだ沢山あるのですが、誌面の都合上、最後に Povoas Susana 氏[3] の実践的試みを紹介させていただきます。ポルトガル、イギリス、デンマークの共同研究チームからは、ハンドボールがもたらす健康効果に関する研究は数少ないとして、運動習慣のない 16 名の中年者に対する短期的なハンドボールエクササイズの効果に関する実践的介入研究の一部が示されました。平均年齢 42.3 歳、平均身長 179.4cm、平均体重 98.3kg、平均体脂肪率 22.0% の被験者を対象に、12 週間のレクレーションハンドボールゲームを中心とした運動介入試験を行った結果、全身持久力の指標である VO_{2peak} は 11.4 % 増、繰り返される高強度運動からの回復力を示す間欠的能力（Yo-Yo IR test Level 2）は 63.8% 増、上体筋力指標は 45.4% 増と、それぞれの体力値が有意に改善したことが報告されました。また、平均血圧値の有意な低下（-6mmHg 程度）や体脂肪率の低下（2.3% 減）も認められており、中年者の楽しいハンドボールゲームプログラムが、体力値を維持させ、生活習慣病発展のリスクを抑制する可能性が示唆されました。これらは未だ予備的データ（運動開始初期データ）であることから、今後の更なる研究の発展が期待されます。

以上、ご紹介しました研究報告は、EHF から 2014 年 1 月に公式科学 Book として発行されました “EHF Scientific Conference 2013, Women and Handball: Science and Practical Approaches, European Handball Federation. (ISBN: 978-3-9503311-1-0) に すべて掲載されています。“自然科学”、“トレーニングとゲーム”、“人文科学” の 3 領域に、計 66 編の研究論文（総 363 ページ）が収められています。もちろん、EHF の Web サイトからも閲覧することができるようになるでしょう。今回の第 2 回会議を終えて、2 年前の初回会議よりもさらにコーチと科学者の共働が進んでいるような印象を受けました。科学者はより実践的なアプローチを意識し、コーチは異分野エキスパートとの連携による多角的な情報を望んでいます。また、新旧ハンドボールマンの連携を深めることで過去の経験を科学化しようとする試みも進められています。各国ナショナルチームスタッフが積極的に会議に参加して希少な情報を共有していることからも、この会議はハンドボールマンとしての強い信頼関係の上に成り立っており、自（国）チームの強化はもちろんのこと、将来のハンドボール界全体の発展を願う高いレベルの “意識” が働いていました。ぜひ、今後とも継続的な開催を希望しています。我々は、このような貴重な機会を無駄にすることなく、僭越ながらハンドボール実践と科学のブリッジとなれるよう努力し、これからの日本ハンドボール発展のために地道な活動を継続していきたいと考えています。

1) Oliver Coronado, et al. Need and Proposal for Change in the Size of Women's Handball Ball Supported by a Scientific Study: 'The Coverage Index of the Ball'. EHF Scientific Conference 2013, Women and Handball: Science and Practical Approaches, Natural Sciences, European Handball Federation, 106-111, 2014
2) Sosa Gonzalez, et al. Study of the Physical Condition of Young Elite Female Handball Players. EHF Scientific Conference 2013, Women and Handball: Science and Practical Approaches, Natural Sciences, European Handball Federation, 145-150, 2014
3) Susana CA Povoas, et al. Handball 4 Health: Effects of a Short-Term Handball Based Exercise Programme on Health and Performance Markers in Untrained Adults. EHF Scientific Conference 2013, Women and Handball: Science and Practical Approaches, Natural Sciences, European Handball Federation, 123-125, 2014



筆者ら。プレゼンテーションを終えて。


【ダイドウザリガニ】
特性／ハサミが力強く、
夢・希望・時代を掴む力に優れていて
未来へ突き進む強靱な尾を持つ。

ツカムチカラ

大同には “ツカムチカラ” がある 大同特殊鋼
www.daido.co.jp

報告 EHF EURO2014 MEN

奈良教育大学　森下 純弘

2014年1月12日より26日までの期間、デンマークにおいて2014 MEN'S EHF EUROPEAN HANDBALL CHAMPIONSHIPが開催されました。世界はもとより、日本におきましてもインターネット動画サイトにおいて無料LIVE視聴が可能であった事により、非常に多くの方々が視聴したかと思います。(※放映権上、デンマークからインターネット動画サイトへのLIVE視聴にはアクセス制限があり、別会場の試合の様子を見ようと思ったのですが視聴する事は出来ませんでした。)

本大会の日程といたしましては12日～17日に4会場にて各予選ラウンド、18日～22日に2会場にて各メインラウンド、24日にはプレイスメントマッチ（5-6位決定戦）とセミファイナル、26日にも同じくプレイスメントマッチ（3-4位決定戦）とファイナルマッチが行われました。ファイナルマッチは開催国デンマークvsフランスの対戦カードの結果、フランスの優勝で幕を閉じました。

最初に私が期間中に観戦した試合会場は、AarhusのNRGi Arenaで行われました予選ラウンドCグループでした。このNRGi Arenaの観客収納は約5000人で、2002年に行われましたEURO2002 WOMENでデンマークが優勝した会場でもあります。このグループCには今大会優勝したフランス、EURO2010では惜しくも第4位だったポーランド、EURO出場常連国のロシア、前大会EURO2012準優勝のセルビアが配置されているグループでした。また、24日と26日に観戦した会場でありましたHerningのJyske Bank BOXENは予選ラウンドAグループからファイナルまでが行われた会場でした。観客収納は約14000人と、デンマーク国内でも最大規模であり、EURO2010 WOMENのファイナル会場でもありました。

この2会場を私は訪れたわけですが、AarhusもHerningも街中に今大会のPR段幕が、道や商店街等に多々掲げられていました。他にもその街を通るバスや電車の中にもPRポスターが多々見受けられました。恐らく他の2会場の街、AalborgとCopenhagenも同様だったと思います。

今大会、最も印象的だった試合は、24日に行われましたセミファイナルのフランスvsスペインとデンマークvsクロアチアでした。両ゲームは本当に見応えのあるゲームでした。よく「トーナメント戦は準決勝の2試合がおもしろい！」といった言葉を聞きますが、結果を見ましても分かる様に、まさにその言葉にふさわしく、どちらがファイナルに進んでいてもおかしくない試合内容でした。また、私が個人的に目を向けたのは前大会自国開催し、見事準優勝したセルビアです。セルビアは予選ラウンドCグループを結果的には全て敗戦で終えてしまったのですが、どんなに負けていても局面では素晴らしいフットワークでディフェンスをしていました。あの素晴らしいフットワークをトータル面で保つ事が出来ればもっと上に進めたかと思います。

さて、本来なら試合内容や私的分析を述べた方が良いのでしょうが、試合を観戦していて、日本ではあまりないアクシデントや気になった点がありましたので綴らせて頂きます。それはフランス代表のNikola Karabatic選手が試合途中でパワーパンツの色を指摘され、ベンチに下げて着替えさせられるというアクシデントがあった事です。これは日本では通常は開始前にレフェリーチェックを行い、問題があれば試合前に指摘がある為、このようなレフェリーチェックを行わない大会（日本以外の大会）ではあり得るアクシデントだと思います。しかし、アンダーウェア類はユニフォームと色の異なるものを着用、チーム全員も色はバラバラ、アームスリーブ等のグッズもほぼ自由に着用していました。

また、同じく日本では目にしたことのないアクシデントがありました。フランス代表のCedric Sorhaindo選手やデンマーク代表のMikkel Hansen選手は試合中に激しいディフェンスによりユニフォームが破れ、同じくベンチで着替えさせられる光景を目にしました。日本では流血により汚れたユニフォームを着替える為にベンチに下がる光景は目にした事はありますが、破れて着替えさせられるのはヨーロッパではよくある事でしょう。しかし、何かあった時用にとでも言いましょうか、予備のアンダーウェア類やユニフォームを全員分ベンチで保管用意しており、すぐに出せる状態にあった事は驚きの一つでした。

それともう一つ、日本ではタイムアウトカードを手に持ちながら身振り手振りに指示をする事は禁止されていますが、今大会ではそのような光景も見られた上、タイムカードをお尻のポケットに入れていた監督も居ました。「お尻のポケットなんかに入るのか？」と思われる方も居るでしょうが、これは日本で使用しているタイムアウトカードと今大会で使われていたタイムアウトカードの形状が違っていたからでしょう。また、ベンチの端から端の所謂コーチングゾーンなんかを超えて指示する光景やベンチの監督やコーチ数名が立ち上がり指示する光景も珍しくありませんでした。アンダーウェアの件も含め、これらの件は国際的に規制がないのであれば、IHFのルールに基づいた大会の筈が、国や地域の規制によって、試合の流れや選手のモチベーションを左右する事に繋がらなければ良いと思います。

当初は今回のEURO2014 MENを楽しんで観戦するつもりで会場に足を運んだのですが、上記の様に日本の各カテゴリーの試合では考えられない光景を当たり前の様に目にする様になり、試合をしているコート外、会場や観客、運営サイドにも目が向く様になりました。例えば、センターサークル上には遠い観客席からでも細かいプレーをリプレイで確認出来る様に、四面体の大型テレビが設けられ、その大画面でOF側からでもGK側からでも確認出来る様にセンターサークル上及びゴールポスト奥に小型カメラも設置されており、まさにそれはテレビや前途で述べたインターネット動画サイトで放映されている画面上のものと同じでした。（写真1、2）


写真1

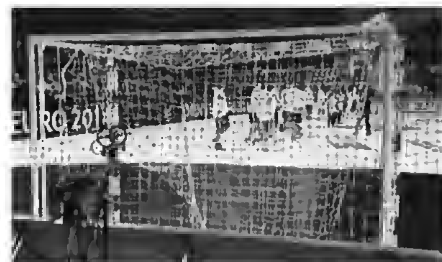


写真2

その他、TD席やベンチの後方側の観客席は多数のパソコンを用いた分析班や報道関係等の席で埋めつくされていた事、レッドカードを貰い、ベンチに居られなくなった選手が待機する用の席があった事、また、観客席の外側周りに設けられていたFANSHOPや幾つかのFOODSHOPには試合前後やハーフタイムには多数の観客が集まっていました。また、私は入る事が出来ませんでしたが、関係者のみが入れるレストランやVIPルーム、PRESSルームもありました。また、AarhusのNRGi Arena以上にHerningのJyske Bank BOXENでは観客席の外側周りに設置されていただけでは足りなかったのか、トイレの近くまでにもFANSHOPやFOODSHOPの設置が広げられていました。そして上記同様に、関係者のみが入れるレストランやVIPルーム、PRESSルームも確認出来る限りは広大だったと思います。

また、HerningのJyske Bank BOXENでは、AarhusのNRGi Arenaでは見られなかったサービスがありました。それはコートのある施設（アリーナ）とは別にテントで繋ぎ設けられた施設（アリーナ）に、FANゾーンと名称づけられた場所がありました。この場所も、コートのある施設と同じくらいの広さがあり、中にはコート周りとは違ったFANSHOPや多数のFOODSHOP、デンマークの選手と合成写真を撮れるブース等の他、ハンドボールゴールを利用したアトラクションブースやストリートハンドボールコーナー、卓球コーナーもあり、自国を応援するまでの観客達で盛り上がっていました。（写真3）



写真3

来年2015年にはカタールで男子世界選手権が開催されますが、各会場ではそれに向けた宣伝もされておりました。特にセミファイナル以降の会場でありましたHerningのJyske Bank BOXENでは会場出入り口付近に宣伝用のブースも設けられており、観客も非常に多く集まっておりました。中にはある条件をクリアすると宣伝用に用意されたTシャツをプレゼントするブースもあり、子供から大人、家族といった幅広い層が集まっていたブースは他に目にする事はありませんでした。（写真4）



写真4

これらを踏まえ、2019年女子熊本世界選手権、2020年東京五輪を日本で開催するにあたり、非常に多くの参考にすべき事やそれ以上の課題が今の日本にはあるかと思います。恐らく、ヨーロッパはもとより、世界中から日本に観客は集まって来るでしょう。仮に今回のEURO2014を観戦したヨーロッパ人の全てが熊本世界選手権や東京五輪を観戦目当てに来日した際に、まさか世界規模の大会がヨーロッパ規模の大会内容以下だとは考えていないでしょう。実際にヨーロッパ各国のプレーオフは、日本のプレーオフと比べるとどうでしょうか。私はそれをも踏まえ、日本でそれらを開催するにあたり、その時に考えられる最高のおもてなしをする必要があると考えています。その準備期間に既に入っているのではないでしょうか。

最後に、私が今大会を観戦した事にあたり、観戦チケットの手配をして頂いたEHFのPeter Froschl氏とVesna Lazic氏、Fumiko Liwendahl氏に感謝する事はもちろんですが、私に同期間で行われた2014 EHF MASTER COACH講習会を含め、今大会までの全てのデンマーク日程の機会を与えて下さった駒澤大学教授及び日本協会参事の村松誠氏に御礼を申し上げますと共に、日本のハンドボール界の益々の発展、及び2019年女子熊本世界選手権と2020年の東京五輪の成功を心より祈念しております。

公認審判員規程の一部改正について

審判部長　藤井俊朗

審判部ではここ数年、公認審判員の定年延長について検討してまいりました。また、昨年の東京国体の折に開催された全国理事長会議では具体的な提案をしていただきました。

それを踏まえた下記の改正案が2月8日の日本協会理事会にて承認されましたので、平成26年4月1日から実施いたします。（下線部分が改正部分）

（審判員の年齢制限）

第2条　公認審判員の資格は満16歳以上とする。

全日本大会、日本ハンドボールリーグ大会、および各ブロック協会・連盟主催の大会に選出される公認審判員については、定年制を設ける。満50歳の誕生日を迎えた年度の、3月31日をもって定年とする。各都道府県大会などにおいては、この限りでない。

ただし、A級・B級公認審判員は、満53歳の誕生日を迎えた年度の3月31日を期限として、ブロック大会まで担当できることとする。

満50歳を一区切りとすることは、これまでと変わりありませんが、A級・B級（終身）審判員は審判員登録を継続すれば53歳までブロック大会を担当できることになります。

該当する審判員の皆さんには、各大会においてチームやプレーヤーが日頃の厳しいトレーニングの成果が十分発揮できるよう担当をしていただくのはもちろんのこと、若い審判員の良き手本となり、各ブロックおよび都道府県協会審判長と協力し、将来を担う審判員の育成に御協力いただきますようお願いいたします。

ヨーロッパのハンドボールLIFE

ドイツのハンドボール体験記

SV Anhalt Bernburg（スウェーデン）
小賀野 龍也

ドイツ３部リーグのSV Anhalt Bernburg（エスファオ アンハルト ベルンブルク）でプレーしている小賀野龍也です。今シーズンがドイツ２年目になります。今回このように記事を書かせてもらえることにとても感謝しています。自らの感じたことや経験が何か少しでも参考になれば嬉しく思います。

【きっかけ】

湧永製薬ハンドボール部に所属して２年目のとき、チームの強化策の一環として「海外ハンドボール留学制度」がスタートしました。世界で通用する選手の育成を狙いとした制度で、ドイツのチームに試験を受けに行き、合格すると期限付きでハンドボール留学することができる、というものです。私はその制度で２部リーグのSC DHfK Leipzig（エスツェー デーハーエフカー ライプツィヒ）の試験に合格し、多くのサポートを受けながら２年間の海外ハンドボール生活が始まりました。

【海外生活】

ドイツでハンドボールができることが決まり、自分が認められたという喜びと、どこまで自分のプレーが通用するのか挑戦したい気持ちでとてもワクワクしていました。また、初めてハンドボールをしたときの楽しさを思い出しました。しかし、それと同時に不安もありました。海外で初めての一人暮らしに加え、さらに言葉も話せません。ハンドボール以前に、身の周りの環境が整っていないことが不安でした。



様々な不安もありましたが、失敗しながら学んでいき、１ヶ月２ヶ月経つと徐々に生活にも慣れていきました。週に２、３回朝練習をして、昼間に語学学校に通い、夕方また練習し、週末に試合というのが生活の流れです。２部チームのスタッフとの話し合いの結果、レンタルという形で３部のSV Anhalt Bernburg（エスファオ アンハルト ベルンブルク）でプレーすることになりました。まだ言葉が話せないことと、激しい接触で怪我の恐れがあるためでした。



【３部ベルンブルク】

３部のベルンブルクは快く受け入れてくれました。始めはスタートの左利きの選手を休ませるための出場で、出場時間は10分程度でした。そのあとも同じような出場が続き、なかなかうまくいきませんでした。そこから気持ちを切り替え、自分らしさを出していこうと決めてから、徐々に出場チャンスが増えていきました。さらにドイツ語を少しずつ話せるようになると、チームメイトとのコミュニケーションも取れてきて、試合に安定して出られるようになりました。

試合に出られるよう、始めはチームのためにうまくプレーすることを考えていました。パスキャッチミスをしないように安全なプレーを選んだり、フォーメーション通りに動いたりしていました。しかし、失敗を恐れず自分らしさを出すことが大事だと気づきました。自分の得意なプレーがチームのオプションとなって、本当の意味でのチームプレーに繋がると思います。私は192㎝と大きい方ですが、ドイツでは速攻の勢いに乗ったプレーやカットインが通用しました。

また、相手と駆け引きをすることも大切だと感じました。毎回同じプレーでは相手に読まれてしまうだけでなく、プレーしていてもつまらなくなってしまいます。それからは練習や試合中にプレーを思いついたら挑戦するようにしました。たまに失敗して交代するときもありますが、プレーの幅が広がっていき、駆け引きが楽しくなっていくと思います。その他には、まだ言葉で十分コミュニケーションが取れない分、普段の練習から何を意図しているのかを考え、読み取ることを意識しました。そうすることでチームとして求められるプレーもわかり、迷いがなくなると思います。

いいプレーに対しては監督やチームメイト、ファンの人から「ナイスプレーだったよ」と言ってもらえる環境がドイツにはあります。そのことが次の試合でもいいプレーをしたい、と思う原動力になります。褒めて伸ばすのがドイツスタイルかもしれません。ベルンブルクでは試合毎にチーム内ベストプレーヤーを決めています。日本では優秀選手が商品を受け

取りますが、ベルンブルクではその選手がみんなと喜びを分かち合うため、ドイツならではのビールを準備して、喜び合います。チームメイトの誕生日にはチームでお祝いし、練習以外のところでもコミュニケーションを取っていて、お互いがライバルでありつつ良きチームメイトでもあるという関係をうまく作っています。

【2部ライプツィヒ】

シーズンも半分を終えた頃、ライプツィヒのチーム状況と自分のプレーの調子がいいことから、2部のライプツィヒに移籍することができました。さらに1つ上のレベルでの挑戦。2部ではチーム内の競争も激しく、試合に出られない時間が多くありました。その分、素晴らしい環境の中でプレーして勝てたときは、とても嬉しかったです。試合には毎回2000人を超える観客が来てくれて、試合後の会場では子供たちがハンドボールで遊んでいます。色々な面でドイツのハンドボールはとても身近にあると感じました。

2部の最後の1ヶ月間は新しい監督が就任しました。その監督になってからはメンバーに空きがあっても、ユニホームさえ着させてもらえませんでした。レベルの高いチームでプレーするとき、言葉の壁というものが予想以上に大きいものでした。悔しい気持ちとともに、その経験からわかったこともあります。試合中に起こる変化に対して、すぐに対応するコミュニケーションの重要さ、タイムアウトの1分間の大切さです。試合中に選手が話し合ってDFの仕方を変えたり、OFのきっかけを変えたりして、試合を有利に運ぶ工夫をしていました。タイムアウトは監督が大きくDFシステムを変えたり、選手を落ち着かせたり、時間と点差を見ての意思統一を計ったりなど、勝敗を分けるポイントだと感じました。ここにチームとしての駆け引きがあると思います。

【終わりに】

ドイツに来て感じたことは、自分自身に挑戦できる環境があるということです。最初、ドイツは日本のレベルからさらに上を目指す選手が行くところだと思っていました。しかし実際は違っていました。数多くのチームがあり、選手の移籍も多く、自分のレベルに合ったリーグでプレーできます。代





わりに、チームの中で自分の個性を出していくことが必要です。プレーが良いときには評価されて試合に出場するチャンスが増え、逆に悪いときにはチャンスが減ってしまいます。ドイツは高い目標に向かって挑戦できる分、とてもシビアです。

また、ドイツ語もドイツでハンドボールをする際には必要な能力であると教わりました。たとえプレーが良くても言葉を話せないことで、選手の評価はマイナススタートになってしまいます。DFのコミュニケーションやタイムアウトでの指示がわからないと、チームとしての力を発揮できないからです。

選手起用に関して、私の場合はこちらが1人退場になったときから出場することが多くありました。そのタイミングでの交代はスタートの選手を休ませることやベンチスタートのメンバーの緊張を解くのにいいと思います。人数が少ないときには1人1人の運動量が増えるからです。試合の流れを変えるときにも選手交代をしますが、先に慣らしておくことでスムーズに入っていけると思います。さらに自分たちの試合のプランと大きく変わってしまったときのために、DFシステムを2つは準備しています。2部のときには最終スコアも決めて試合に臨んでいました（例：23点に抑えて24点取る戦い方の意思統一)。プレーする選手もそうですが、監督の試合毎に立てる作戦や選手起用、タイムアウトも勝敗を分ける要因だと感じました。

そして2020年は東京がオリンピックの開催地に決まりました。日本のハンドボールも世界と戦えるよう、ますます強化していかなければなりません。私にできることは、ハンドボールに興味を持ってもらえるようプレーや活動をしていくことだと思います。試合後のコートで子供たちがハンドボールをして遊んだり、ファンの人との交流が増えたりして、ハンドボールが身近なスポーツになると嬉しいです。

2年目の今シーズンは3部でプレーしています。現在チームは後半戦に突入し、15勝5敗2分の3位です。ハンドボールを楽しむことをモットーに残りの試合も頑張りたいと思います。湧永製薬のハンドボール留学制度では今シーズンからさらに2人、ドイツに挑戦しに来ています。海外でチャレンジしたいと考えている選手にとって、1つのキッカケになると思います。

日本ハンドボール学会 第2回大会

第2回大会実行委員長　田中　守（福岡大学）

一昨年5月に日本ハンドボール学会が産声を上げ、昨年3月の第1回大会に引き続き第2回大会が、2月15日（土）16日（日）の2日間に亘り駒澤大学深沢キャンパスにて開催されました。ただ、今回は13年ぶりの大雪に見舞われ、都内交通網の大混乱のみならず全国各地からの参加者の交通手段も一部絶たれたことから、プログラムの大幅変更を余儀なくされました。実際、大会実行委員長の私も午前中の飛行機が全便欠航となり、新幹線に乗り換えて2時間遅れの参加となりました。そのような中、藤本元大会実行委員（筑波大学）と学会事務局の會田宏理事長（筑波大学）の気転により、プログラム変更と開始時間30分の遅延とで開会できましたことに感謝申し上げます。大西武三学会会長（筑波大学名誉教授）による開会の挨拶時は、10数名の参加人数で心配されたそうですが、私が到着した時にはすでに40～50名に膨れ上がり、盛大に行われていました。

その最初のプログラムは、幸い前日入りしていた平岡秀雄副会長（ご自宅のある山梨が豪雪に見舞われたことから、学会どころではなく雪かきに帰るとおっしゃっていましたが、車の渋滞で帰ることができませんでした）による基調講演で始まりました。本学会の前身である「ハンドボールコーチング研究会」の創設者・初代代表であることから、「日本ハンドボール学会が期待されていること」と題したテーマは、創設された先生の思いを伝えてくださるものでした。それは、学会の設立主旨にある"ハンドボールに関わる知の提供"そのものであり、具体的には1）学会独自の研究視点をもつこと、2）科学的検証法の確立、3）研究者と指導者・選手との連携支援、4）オリンピックを含む大会に向けての支援や"知"の提供、でした。

次のプログラムは、一般発表演題に切り換えて5演題、翌日の前半に4演題としました。昨年の16演題には及びませんでしたが、技術・戦術研究が多い中、ジュニア層を対象にした指導者研究、一貫指導システム研究、トレーニング環境調査など、新しい視点の研究が特徴的と感じました（学会ホームページ参照）。この中から、学会事務局企画の学会大会賞が選考され、田代智紀さん（筑波大学大学院）の「ハンドボール指導者の熟達化に関する研究―立ち上げたチームを全国大会常連校に育てた若手指導者の語りを手がかりに―」と伊藤寿浩先生（福岡大学）の「ハンドボールにおけるミスプレイの発生に関する一考察―判断力に着目して―」が受賞されました。また、昨年末に発刊された「ハンドボールリサーチ第2巻」掲載論文の中から学会賞と学会奨励賞の表彰が、全発表終了後の総会において行われました。学会賞には、和田拓先生（青山学院初等部）藤本元先生、山田永子先生、會田宏先生（筑波大学）の「ハンドボール日本代表チームにおける攻撃の現状と課題：同一監督が指揮した2008年から2012年までの公式試合の分析から」が、奨励賞には田島聖子さん（琉球大学大学院）の「ハンドボールにおける積極的防御活動を養成する導入プログラムの開発とその効果の検証：児童期の選手を対象とした指導実践をてがかりに」が選考されました。

そして、最終プログラムとして、2020年の東京オリンピックに向けまたそれ以降も世界に伍して戦える選手を育成するために、「未来のハンドボールを担う子どもたちに、私たちは何をどのように教えたらよいか」をテーマにしたシンポジウムを行いました。残念ながら、小学生指導に卓越した実績（全国小学生大会優勝6回：男女各3回）を持つ翁永誠光先生（沖縄県神森小学校）が飛行機の欠航により参加できませんでしたが、小松市立女子高校を率いての高校3冠達成や女子U16日本代表監督の実績を持つ古橋幹夫先生と、ハンガリー出身で男女ジュニア日本代表コーチの実績を持つネメシュ・ローランドさん（筑波大学）に登壇いただきました。古橋先生は、「個」の育成に関して、シュートは最終的に利き腕を側方に伸ばした（DFからずれている）位置でスナップを利かすことを強調、フェイントは上体を使ったフェイクの重要性を強調する独自の理論を展開されました。ローランドさんは、ハンガリーの一貫指導システムを紹介し、小学校から2歳刻みで系統立ったプログラムを共通に実践していること、また系統立った体力づくりの必要性も強調されました。コーディネーターをされた藤本先生も、U16日本代表監督の実績やNTS指導内容策定メンバーであることから、フロアからの活発な意見も生かしながら「個」の育

OSAKI



mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。

限られた資源だから、有意義に使っていきたい。
命あるものたちが共存する地球だから、
快適な環境を守っていきたい。
計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、
ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、
つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社　〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア TEL.(03)3443-7171(代表)





成の議論を進められ、実のあるシンポジウムになったと思われます。

2年目の学会員登録数が134名と昨年を22名上回り、会員層が着実に拡まってきています。今学会大会の参加者数も教室が満席となる盛況な学会となりました。大会実行委員として準備と運営にご尽力いただいた藤本元先生、辻昇一先生（日本体育大学）、八尾泰寛先生（東京女子体育大学）、学会事務局中心に準備と当日運営にご尽力いただいた筑波大学の會田宏先生、山田永子先生、筑波大学と日本体育大学大学院生の皆さん、会場を提供して下さった村松誠先生（駒澤大学）、多くのアドバイスをいただいた大西武三会長、平岡秀雄副会長、樫塚正一副会長、座長を務めていただいた亀井良和先生（日本女子体育大学）、横手健太先生（高松大学）そして足元の悪い中でも足を運んでいただき、大会を盛り上げて下さった参加者の皆さんに、誌面をお借りし厚く感謝と御礼を申し上げます。

大会プログラム

【2014年2月15日】
13：00～　受付
14：00～14：05　会長挨拶　大西武三（日本ハンドボール学会会長）
14：05～15：05　基調講演　「日本ハンドボール学会が期待されていること」 演者：平岡秀雄（日本ハンドボール学会副会長・元東海大学教授）
15：20～16：39　一般発表1　座長：亀井良和（日本女子体育大学）
「ハンドボール指導者の熟達化に関する研究―立ち上げたチームを全国大会常連校に育てた若手指導者の語りを手がかりに―」
田代智紀（筑波大学大学院）・會田　宏（筑波大学）
「ハンガリーにおけるハンドボールの一貫指導システム―13歳から16歳までの技術・戦術指導プログラムに着目して―」
永野翔大（筑波大学大学院）・ネメシュ ローランド（筑波大学）
「ヨーロッパにおけるジュニア・アスリートを取り巻くトレーニング環境―ノルウェー、オランダ、デンマークを例に―」
山田永子（筑波大学）
「大学男子ハンドボール選手において優先的に養成すべき体力要因は投能力である」
會田　宏（筑波大学）・出村直嗣（豊田合成株式会社）
「男子ハンドボール競技における世界トップレベルのセンタープレーヤーの得点能力に関する研究―ニコラ・カラバティッチ、ダリボー・ドゥデアーの2選手に着目して―」
伊東裕希（筑波大学大学院）・山田永子（筑波大学）

【2014年2月16日】
09：30～10：33　一般発表2　座長：横手健太（高松大学）
「大学女子ハンドボール選手における試合前の気分・感情に関する縦断的研究」
大久保　瞳・生川岳人（日本体育大学大学院）・山本沙貴・松井幸嗣・辻　昇一（日本体育大学）
「ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズム構築に関する研究―1対1突破局面におけるプレイの可能性―」
清水宣雄（国際武道大学）・東　俊介（大崎電気）
「ハンドボール競技における連続失点が勝敗に及ぼす影響―時間帯と失点内容に着目して―」
横山克人（東海大学大学院）・栗山雅倫・田村修治（東海大学）
「ハンドボールにおけるミスプレイの発生原因に関する一考察―判断力に着目して―」
伊藤寿浩（福岡大学）・杉森弘幸（岐阜大学）・下川真良（朝日大学）・田中　守（福岡大学）
10：45～12：30　シンポジウム「未来のハンドボールを担う子どもたちに、私たちは何をどのように教えたらよいのか」
パネリスト：古橋幹夫（石川県小松市立高等学校）・ネメシュ ローランド（筑波大学）　コーディネータ：藤本　元（筑波大学）
12：30～12：50　総会・表彰式



頂点をめざす すべてのアスリートへ。



原寸大：W45mm×D17mm×H70mm

2チャンネル同時出力で さらに強力サポート。

もっと速く、もっと強く、昨日の自分を超えるために常に限界の先をめざすアスリートたち。
2チャンネル出力になって進化したポータブル低周波治療器は
損傷した筋肉により効果的に働きかけ、場所を選ばずにいつでも自分の体をケアすることができます。
世界のスポーツの舞台を支えるITOのポータブル低周波治療器が
極限で戦うアスリートのコンディショニングをさらに強力サポートします。







※医科向けの医療機器のため、専門家の指導のもとに使用してください

60g 超軽量

本体重量わずか60g（充電池含む）、サイズも極小。ITOの技術が、今までになかった超軽量・コンパクトな低周波治療器を実現しました。

12時間 連続使用

リチウムイオンバッテリーにより、最大12時間の連続使用が可能。この小ささで、スタミナも一流です。

3つの治療モード COMB / CARE / PAIN 鎮痛・治癒

● COMB〈鎮痛+治癒〉Allタイムケア
トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的な、鎮痛と治癒を組み合わせたケアモードです。

● CARE〈治癒〉OFFタイムケア
移動中や休憩中などの体を休めている時にも、トレーニングで損傷した筋組織の治癒を促進します。

● PAIN〈鎮痛〉ONタイムケア
トレーニング中など、現場で起こった捻挫や筋肉・関節の痛みといった急なアクシデントに有効です。

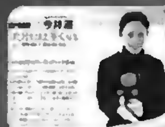
ITO PHYSIOTHERAPY &REHABILITATION

製造販売元

伊藤超短波株式会社
東京都練馬区豊玉南3-3-3 www.itolator.co.jp

メディカル事業部 本 社：〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15
TEL. 03(3812)1216(代)・FAX. 03(3814)4587

営業所	札幌	TEL.011(820)2830	東大阪	TEL.072(242)1041
	仙台	TEL.022(306)7667	西大阪	TEL.072(242)1043
	関東甲信越 第1	TEL.03(3812)1217	広島	TEL.082(506)1421
	関東甲信越 第2	TEL.03(3812)1218	福岡	TEL.092(573)6053
	関東甲信越 第3	TEL.03(3812)1219	デンタル部門	TEL.03(3812)4151
	名古屋	TEL.052(701)4515	臨床治験部	TEL.03(3812)4152


インタビュー公開中！
トップアスリートたちの
スポーツにかける情熱を
独自取材！
イトー スポーツプロジェクト
検索


公益財団法人
日本ハンドボール協会
公認スポンサー

私たち伊藤超短波は公認スポンサーとして、コンディショニングサポートを通じてハンドボール日本代表選手を支えています。





写真提供 ……人日本ハンドボール協会

全日本総合大会に参加して

長崎県ハンドボール協会　青木 忠久・原口 佳也

去る 12 月 24 日から 28 日までの 5 日間、第 65 回全日本総合ハンドボール選手権大会審判にノミネートされ、初参加させて頂きました。今大会､日本ハンドボール協会審判部をはじめ、開催地の愛知県ハンドボール協会・名古屋市ハンドボール協会の皆様方には心温かいおもてなしと対応をして頂き、厚くお礼と感謝を申し上げます。

今大会は言わずともしれた一戦必勝のノックアウトシステムで大学生・クラブチーム・実業団とレベルの高いチームが集結し、年度チャンピオンを決める国内最高峰の大会です。今回の審判員は 9 ペアがノミネートされ、その内訳は、日本リーグ審判員が 7 ペア（そのうち国際審判員が 5 ペア）でした。全国のトップレフェリーが集結する中、私たちは今年度Ａ級に合格し、昨年 10 月に開催された東京国体にペアとして初めて全国大会に参加したまだまだ経験が浅い審判員です。しかし、参加するからにはトップレフェリー集団の一員として恥じぬよう、個人でのトレーニングや以下の項目に課題を持って今大会を迎えました。

①ハンドボールの特徴であるスピーディーさを出す。
②試合序盤での判定の基準を両チームに理解させる。
③罰則を的確に適用し、ベンチ管理は毅然とした態度で対応する。

これは、「平成 25 年度審判員の目標」の中に示されたものですが、基本に忠実に行うことはどの大会に参加しても同じで大切だと感じ、意識して取り組むように心掛けました。

5 日間の競技期間中、3 試合を担当することができました。上記①～③の課題は全て満足にクリアすることはできませんでしたが、今回の大会で特に得たものは、以下の３点です。

①アドバンテージのタイミング

今までプレーを見ながらタイミングを計って適用してきましたが、あまり長く見すぎることで難しい現象が起きてしまいます。そのため、アドバンテージの必要性と発展性のないプレーに対しては、早めにプレーを切る笛の区別の必要性を感じました。

②攻撃側の違反を的確に判断

今まではスピーディーさを出そうと思うあまり、見逃すことが多く、結果的に防御側の違反行為として判定したり、得点に繋がってしまったりして、選手やベンチ、観客に不信感をもたらすことがありました。

③許される・許されない行為の正しい判定

正しい防御動作をしている選手は最大限に評価しますが、多少の横からの軽いプッシングやポストプレーヤーとディフェンスの位置取りの際に起きる接触などの基準（グレーゾーン）が曖昧になっていることが反省として挙げられました。

その他にも、藤井審判長をはじめ、仲田、浜田、坪井副審判長に多くの指導助言をいただいたり、多くのトップレフェリーが担当する試合を観察したりすることができ、やはり納得のいく判定や大きくて綺麗なジェスチャーなど、とても勉強になりました。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。今回経験したことを基に、今後も地方大会から課題を持ち、学びの姿勢を忘れずに取り組んでいきます。また､地元にも自分たちが学んだことを報告し、その情報を共有することで、本年の 10 月に地元で開催されます『長崎がんばらんば国体 2014』の大会成功に繋げていく所存です。



青木忠久審判員（左）と原口佳也審判員（右）



街が、語りはじめる

NIPPO

なにげない街の表情にも、新しい感性が発見できるもの。
「舗装」の彩り、風合が、街を個性的に演出します。
【横浜市・馬車道通り】 歩道：イギリスレンガ／車道：明色ロールドアスファルト

株式会社 NIPPO　本社：〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11
☎(03)3563-6711 URL:www.nippo-c.co.jp

北海道支店☎(011)842-8866　東北支店☎(022)262-1511　関東第一支店☎(03)5323-3681　関東第二支店☎(03)3471-0788
北信越支店☎(025)244-9186　中部支店☎(052)211-6581　関西支店☎(06)6942-6123　四国支店☎(087)862-1157
中国支店☎(082)568-6161　九州支店☎(092)771-0266　関東建築支店☎(03)3474-1601

スコアールーム①

第22回JOCジュニアオリンピックカップ2013

開催期日：2013年12月23日（月）～26日（木）　会場：福島県・県営あづま総合体育館、福島市国体記念体育館

【男　子】

▼予選A組

大　分　26（11－10、15－10）20　東　京
東　京　39（17－4、22－15）19　青　森
大　分　32（16－6、16－9）15　青　森

▼予選B組

大　阪　30（11－6、19－12）18　岡　山
岡　山　22（7－12、15－10）22　福　島
大　阪　20（9－12、11－8）20　福　島

▼予選C組

富　山　26（13－8、13－9）17　北海道
神奈川　21（11－7、10－12）19　富　山
神奈川　18（8－8、10－6）14　北海道

▼予選D組

宮　城　27（11－10、16－10）20　三　重
鹿児島　24（14－7、10－15）22　宮　城
鹿児島　25（15－5、10－13）18　三　重

▼予選E組

愛　知　23（9－9、14－10）19　山　口
愛　知　30（14－6、16－9）15　佐　賀
山　口　28（19－5、9－18）23　佐　賀

▼予選F組

茨　城　18（10－8、8－2）10　岩　手
茨　城　23（17－7、6－5）12　兵　庫
岩　手　24（11－9、13－9）18　兵　庫

▼予選G組

福　岡　17（5－10、12－4）14　香　川
福　岡　24（10－8、14－12）20　群　馬
香　川　23（11－13、12－10）23　群　馬

▼予選H組

福　井　32（16－14、16－9）23　京　都
沖　縄　27（11－6、16－4）10　京　都
沖　縄　27（13－10、14－16）26　福　井

▼準々決勝

大　分　19（13－12、6－5）17　大　阪
鹿児島　23（12－7、11－8）15　神奈川
茨　城　17（9－11、8－3）14　愛　知
沖　縄　20（7－10、13－8）18　福　岡

▼準決勝

大　分　29（13－5、16－9）14　鹿児島
茨　城　20（9－11、11－5）16　沖　縄

▼決　勝

茨　城　25（13－10、12－9）19　大　分

【女　子】

▼予選a組

東　京　29（15－7、14－11）18　兵　庫
福　岡　23（11－3、12－8）11　兵　庫
東　京　20（7－8、13－7）15　福　岡

▼予選b組

香　川　29（16－6、13－5）11　広　島
福　島　33（14－12、19－14）26　広　島
香　川　20（8－13、12－6）19　福　島

▼予選c組

大　分　22（12－7、10－10）17　岩　手
神奈川　23（12－7、11－12）19　岩　手
神奈川　22（11－11、11－9）20　大　分

▼予選d組

愛　知　28（17－10、11－8）18　福　井
福　井　23（8－12、15－10）22　岡　山
愛　知　30（17－9、13－5）14　岡　山

▼予選e組

京　都　29（13－5、16－12）17　三　重
三　重　21（10－11、11－10）21　宮　崎
京　都　23（10－8、13－7）15　宮　崎

▼予選f組

茨　城　23（11－9、12－6）15　北海道
茨　城　26（18－4、8－8）12　愛　媛
愛　媛　14（7－4、7－7）11　北海道

▼予選g組

富　山　25（10－5、15－6）11　宮　城
千　葉　33（16－10、17－14）24　宮　城
富　山　29（11－8、18－12）20　千　葉

▼予選h組

山　口　29（13－12、16－5）17　熊　本
熊　本　27（14－9、13－9）18　大　阪
山　口　21（11－7、10－6）13　大　阪

▼準々決勝

東　京　25（15－10、10－7）17　香　川
愛　知　28（12－19、16－4）23　神奈川
茨　城　21（8－4、13－4）8　京　都
山　口　17（11－11、6－5）16　富　山

▼準決勝

愛　知　32（20－9、12－17）26　東　京
山　口　25（11－10、14－9）19　茨　城

▼決　勝

愛　知　22（13－9、9－12）21　山　口

スコアールーム②

全日本社会人ハンドボールチャレンジ2014

開催期日：2014年2月14日（金）～16日（日）　会場：山口県・キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター

▼1回戦

下関クラブ　28（17－10、11－17）27　自衛隊久里浜
香川クラブ　41（15－6、26－4）10　マツダ
SFIDA山口　21（12－5、9－9）14　警視庁クラブ

▼2回戦

新日鐵住金名古屋　20（8－9、12－9）18　下関クラブ
HC和歌山　38（13－7、25－5）12　大阪ガス
HC岐阜　33（16－10、17－14）24　日新製鋼
トヨタ自動車　25（11－7、14－7）14　香川クラブ
EHC　21（9－10、12－10）20　トクヤマ
岩国クラブ　23（10－3、13－8）11　ブラザー工業
長崎社中　39（17－11、22－4）15　豊田自動織機
SFIDA山口　28（13－15、15－8）23　八光自動車工業

▼敗者1回戦

ブラザー工業　19（7－6、12－10）16　警視庁クラブ
香川クラブ　42（19－8、23－8）16　豊田自動織機
下関クラブ　25（9－5、16－12）17　大阪ガス

▼敗者2回戦

八光自動車工業　22（13－7、9－11）18　ブラザー工業
トクヤマ　26（19－2、7－7）9　マツダ
香川クラブ　37（19－8、18－11）19　自衛隊久里浜
下関クラブ　27（15－7、12－11）18　日新製鋼

▼準々決勝

HC和歌山　21（11－8、10－10）18　新日鐵住金名古屋
HC岐阜　18（9－7、9－10）17　トヨタ自動車
岩国クラブ　20（10－12、10－5）17　EHC
長崎社中　29（14－14、15－14）28　SFIDA山口

▼準決勝

HC和歌山　22（12－10、10－10）20　HC岐阜
長崎社中　29（13－7、16－8）15　岩国クラブ

▼敗者敗者戦

日新製鋼　26（10－5、16－3）8　大阪ガス
ブラザー工業　27（10－7、17－8）15　豊田自動織機
警視庁クラブ　28（13－7、15－9）16　マツダ
日新製鋼　30（16－11、14－10）21　自衛隊久里浜

▼敗者戦

八光自動車工業　25（13－9、12－8）17　トクヤマ
香川クラブ　37（19－8、18－12）20　下関クラブ

▼準々決勝敗者戦

EHC　26（15－5、11－11）16　新日鐵住金名古屋
SFIDA山口　24（11－11、13－7）18　トヨタ自動車

▼3位決定戦

HC岐阜　31（16－12、15－15）27　岩国クラブ

▼決　勝

長崎社中　25（14－7、11－10）17　HC和歌山

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」1・2月入会・継続会員

【岩　手】多田和生【山　形】五島訓二【福　島】鳴原健人【群　馬】高橋　潔【埼　玉】辻　幸志、辻　七海、寺尾嗣子、中上達生、原田凌弥【千　葉】窪田　優【東　京】伊東　卓、田村裕子、荘林康次、堀江成典、田村正一【神奈川】新井益枝、相原康宏、岡本　大【長　野】後藤政俊【新　潟】遠藤正伸【石　川】寺垣俊彦【福　井】石塚太陽、竹内宏騎、竹内海祐、河原龍成、渡辺大雅、藤坂尚輝、藤原大悟、大久保玲佑、大久保菜月、村上凌太郎、向嶋愛結、吉田夢叶、河村桜瑚、石塚美沙希、田中もも、竹内琉奈、横山亜里梨、竹内陽和、永森唯透、永森悠透、中野一葉、長﨑莉緒、吉岡七海、飛山空良、高坂　和、高坂　匠、朝倉士詠、峰　悠介、仲野莉生、山田凌裕、山﨑侃生、片岡慶人、山田俊輔、長谷川惣唯、山本究太郎、山崎碧翔、竹内雅治、宮地一護、内山涼太、下川貴輝、下川瑠真、辻　良輝、鍋島弘樹、辻　香菜、青柳　純、北村磨愁、北村萌彩【静　岡】村井美保子【愛　知】筒井理絵、安永光宏、山本淳子、林　薫、林ひろみ、齊藤慎太郎、宮地光男【京　都】廣瀬佳代【奈　良】木村加代、木村和正【広　島】西山絵理【福　岡】浅野　衛【熊　本】川上靖浩【鹿児島】濱田直美

【4月の行事予定】

【会議】……………………………………………………

4月12日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………

4月25日(金)～28日(月)

第11回東アジアクラブ選手権（男・女）

………………………………………（中国・重慶市）

HAND BALL CONTENTS Mar. Apr.

あなたの元気を未来につなぐ
Wakunaga

元気、やる気、
笑顔、湧く。



≪販売名≫
キヨーレオピンw

滋養強壮
虚弱体質

第3類医薬品



≪販売名≫
レオピンファイブw





湧永製薬株式会社
http://www.wakunaga.co.jp/

お取扱店のお問い合わせ 0120-39-0971
（通話料無料）　受付時間 9:00～12:00・13:00～17:00（土日祝日を除く）

asics®
sound mind, sound body

うまくなりたいと思ったら、
言い訳しないことだ。

BETTER YOUR BEST
WITH ASICS.COM

©JHA 2013年ハンドボール日本代表

鋭いカットインからのジャンプシュート動作に着眼。

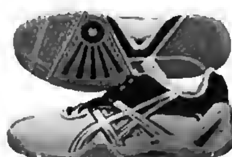
GEL-FIREBLAST THH532
¥14,000+税


アストロブルー×ホワイト(4301)


ブラック×ピンク(9019)

ホールド性向上でさらに力強く。

GELBLAST® 5 THH533
¥12,800+税


イエロー×シルバー(0493)

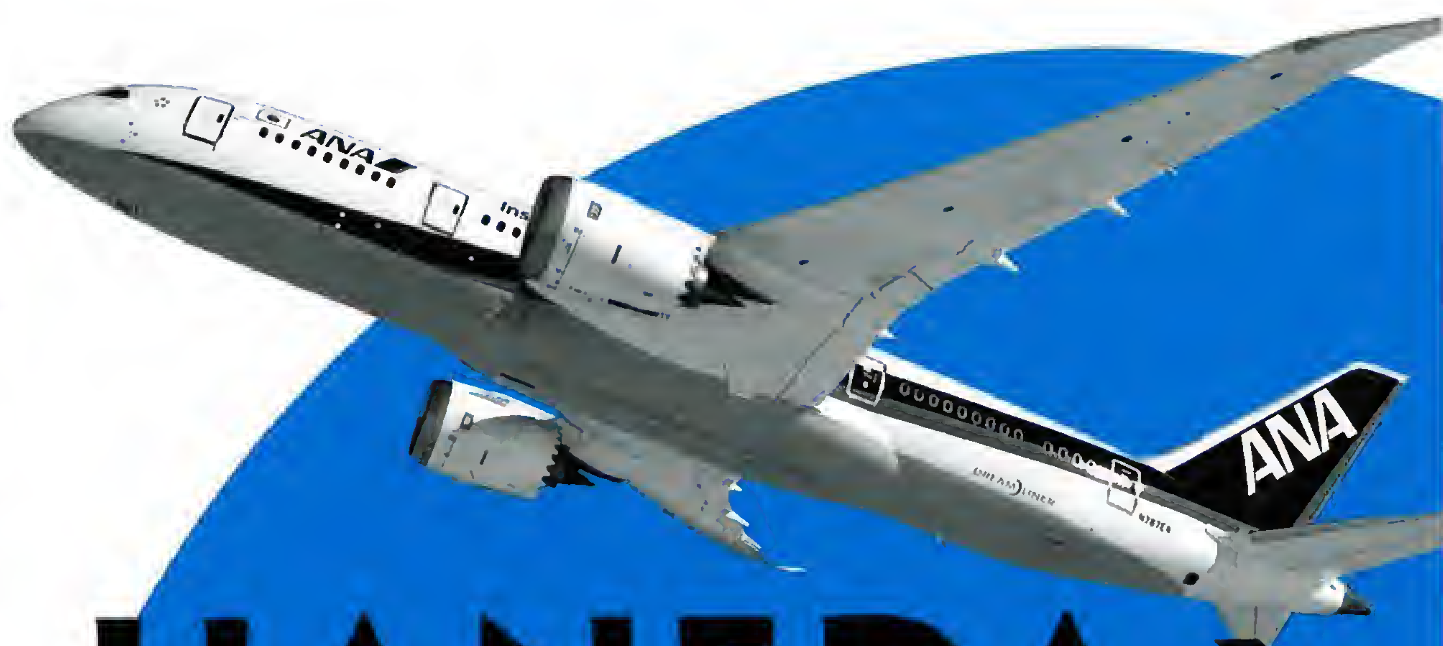

レッド×ホワイト(2301)

●表示価格はすべて消費税抜きのメーカー希望小売価格です。●消費税率は改定により変動する場合があります。●商品についてのお問い合わせは、0120-068-806（携帯・PHSからもおかけいただけます） asics.com

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。

外国で地図を見た。それは僕たちがいつも見ているものとはぜんぜん違っていた。やっと見つけた僕らの国は右の端にいた。小さい地図なら省かれそうだった。そうか。世界からみたらそうか。世界の中心は国の数だけある。世界の中心は人の数だけある。そろそろ考えよう。世界と戦うことじゃなくて世界に必要とされる僕たちにどうしたらなれるだろうか。そろそろ飛びだそう。この国をつくるのはこれからの僕たちなんだから。

日本人のイメージ、変えちゃおうぜ。



HANEDA→
INTERNATIONAL

ANA INTERNATIONAL HANEDA

ANA 2014年3月から、羽田国際線大増便！



Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER


（公財）日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第五四二号

平成二十六年三月二十六日印刷
平成二十六年四月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一一〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円